

平成30年度

岩手県立博物館

年報





# 目で見る岩手県立博物館この1年



ゴールデンウィークスペシャルイベント  
「走れ！蒸気機関車&新幹線」  
平成30年5月5日(土)～6日(日)



ゴールデンウィークスペシャルイベント  
「ミニSLに乗って出発進行！」  
平成30年5月4日(金)～5日(土)



講演のため来館された萩尾望都氏(左中央は達増知事)  
平成30年4月22日(日)



県博バックヤードツアー(歴史コース)  
平成30年5月20日(日)



「祈りにみる動物たち」関連事業 IGR コラボバスツアー  
平成30年11月18日(日)



県博出前講座(高松小学校「昔の暮らし」)  
平成31年3月1日(金)



ナイトミュージアム  
平成30年8月10日(金・祝)～11日(土)



ミュージアムコンサート (出演・盛岡第四高等学校音楽部) 平成30年12月24日(月・祝)



博物館まつり たいけんコーナー「スライムどけいづくり」  
平成30年10月7日(日)



博物館まつり 民俗芸能公演「二子鬼剣舞」  
平成30年10月7日(日)



文化財等取り扱い講習会 (資料梱包実習)  
平成31年1月30日(水)～2月1日(金)



考古学セミナー 講演会  
平成30年9月15日(土)



県博ウルトラクイズ  
平成30年9月30日(日)



チャレンジ博物館 皆勤賞表彰  
平成31年3月17日(日)

# 目次

目で見る岩手県立博物館この1年	- 前付 -
1. 沿革	- 3 -
2. 施設の概要	
(1) 建築の概要	- 5 -
(2) 配置図・展示室等平面図	- 5 -
(3) 各室面積表	- 6 -
3. 博物館協議会	- 7 -
4. 予算	- 7 -
5. 事業の概要	
(1) 展示活動	- 8 -
(2) 教育普及活動	- 18 -
(3) 調査研究活動	- 35 -
(4) 資料収集保管活動	- 43 -
(5) 総務企画調整	- 50 -
6. 文化財レスキュー活動	
(1) はじめに	- 54 -
(2) 安定化处理	- 54 -

(3) 確立した安定化処理技術の普及.....	- 56 -
(4) 被災地支援.....	- 57 -
(5) 今後の課題.....	- 57 -
7. 岩手県立博物館友の会	
(1) 概要.....	- 58 -
(2) 会員数.....	- 58 -
(3) 主催事業 .....	- 58 -
8. 博物館利用者入館状況.....	- 60 -
9. 平成 30 年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織.....	- 63 -
10. 岩手県立博物館使命書.....	- 64 -
11. 関係条例・規則等.....	- 65-

# 1. 沿革

- 昭和 48 年 4 月 県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係(3 名)を設置
- 昭和 48 年 5 月 県庁内に副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
- 昭和 48 年 6 月 博物館資料調査委員(委員 22 名)を委嘱
- 昭和 48 年 7 月 民意集約機構として博物館建設調査協議会(委員 25 名)を設置
- 昭和 48 年 8 月 展示内容等の専門的指導助言を得るため博物館専門委員会(委員 20 名)を設置
- 昭和 49 年 4 月 県教育委員会事務局に博物館開設準備室(庶務係、学芸班 10 名)を設置
- 昭和 50 年 5 月 博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会(委員 6 名)を設置
- 昭和 51 年 1 月 県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
- 昭和 51 年 10 月 建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所(東京都)に決定
- 昭和 52 年 4 月 博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所(総務課、学芸課、工務課、17 名)を設置
- 昭和 53 年 6 月 起工式
- 昭和 53 年 10 月 展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
- 昭和 54 年 11 月 定礎式
- 昭和 55 年 7 月 博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
- 昭和 55 年 7 月 コンパニオン(非常勤専門職員 15 名)任用
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館設置
- 昭和 55 年 10 月 落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式(4 日)
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館開館(5 日)
- 昭和 55 年 10 月 日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
- 昭和 56 年 3 月 第1回岩手県立博物館協議会開催
- 昭和 59 年 10 月 皇太子同妃両殿下ご来館(14 日)
- 昭和 60 年 4 月 財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
- 昭和 62 年 5 月 入館者 100 万人を突破(1 日)
- 平成 元年 3 月 地質総合展示室改修完了
- 平成 2 年 5 月 岩手県立博物館友の会設立(1 日)
- 平成 2 年 7 月 歴史古代展示室改修完了
- 平成 2 年 10 月 開館 10 周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
- 平成 3 年 2 月 入館者、県民人口を超える(14 日)
- 平成 3 年 11 月 入館者、150 万人を達成(1 日)
- 平成 3 年 12 月 歴史中世展示室改修完了
- 平成 4 年 1 月 コンパニオンを「解説員」に改称
- 平成 5 年 2 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館(5 日)
- 平成 5 年 3 月 現勢展示室イヌワシの山改修完了
- 平成 5 年 10 月 国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
- 平成 5 年 10 月 皇太子殿下ご夫妻ご来館(10 日)
- 平成 6 年 1 月 「中尊寺黄金秘宝展」開催
- 平成 6 年 12 月 屋上改修工事完了
- 平成 9 年 12 月 文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
- 平成 8 年 4 月 重要文化財勸告出品館となる
- 平成 9 年 2 月 重要文化財公開承認施設となる
- 平成 9 年 7 月 入館者、200 万人を達成(16 日)
- 平成 10 年 1 月 ハイビジョン室設置
- 平成 12 年 3 月 収蔵庫等改修工事完了
- 平成 12 年 3 月 企画展第 50 回目を迎える(「岩手の経塚」)



平成 12 年 10 月 開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催  
平成 13 年 5 月 近代美術展示閉鎖(美術館へ移管)  
平成 14 年 3 月 マンキサウルス(モシリユウ)全身骨格複製標本展示  
平成 18 年 4 月 施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。(財)岩手県文化振興事業団が指定管理者となる  
平成 21 年 1 月 入館者、250 万人を達成(10 日)  
平成 21 年 4 月 (財)岩手県文化振興事業団が2期目の指定管理者となる  
平成 22 年 1 月 外部階段改修工事完了  
平成 22 年 10 月 開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催  
平成 23 年 3 月 美化事業完了  
平成 24 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が3期目の指定管理者となる  
平成 24 年 12 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館(20 日)  
平成 25 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(22 日)  
平成 26 年 3 月 文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20 日)  
平成 26 年 3 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置(建築面積 115.22 m<sup>2</sup>、延床面積 230.4 m<sup>2</sup>)  
平成 26 年 5 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所(可視化により一般公開)  
平成 27 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(14 日)  
平成 27 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が4期目の指定管理者となる  
平成 28 年 1 月 文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史～」開催  
平成 29 年 3 月 中央監視システム更新工事完了  
平成 29 年 3 月 旧佐々木家・旧藤野家住宅保存修理(屋根)工事完了  
平成 29 年 3 月 正面入口案内看板設置  
平成 29 年 8 月 ボイラー更新工事完了  
平成 30 年 2 月 岩手山眺望確保のための樹木剪定  
平成 30 年 3 月 昇降機改修工事完了  
平成 30 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が5期目の指定管理者となる  
平成 30 年 12 月 マンキサウルス補修工事完了  
平成 31 年 1 月 不活性ガス消火設備更新工事完了

## 2. 施設の概要

### (1) 建築の概要

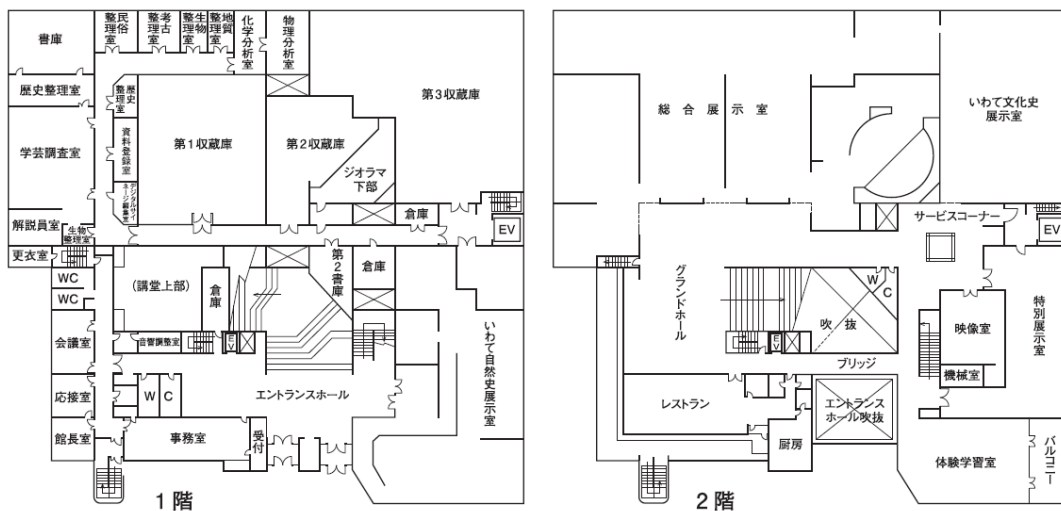
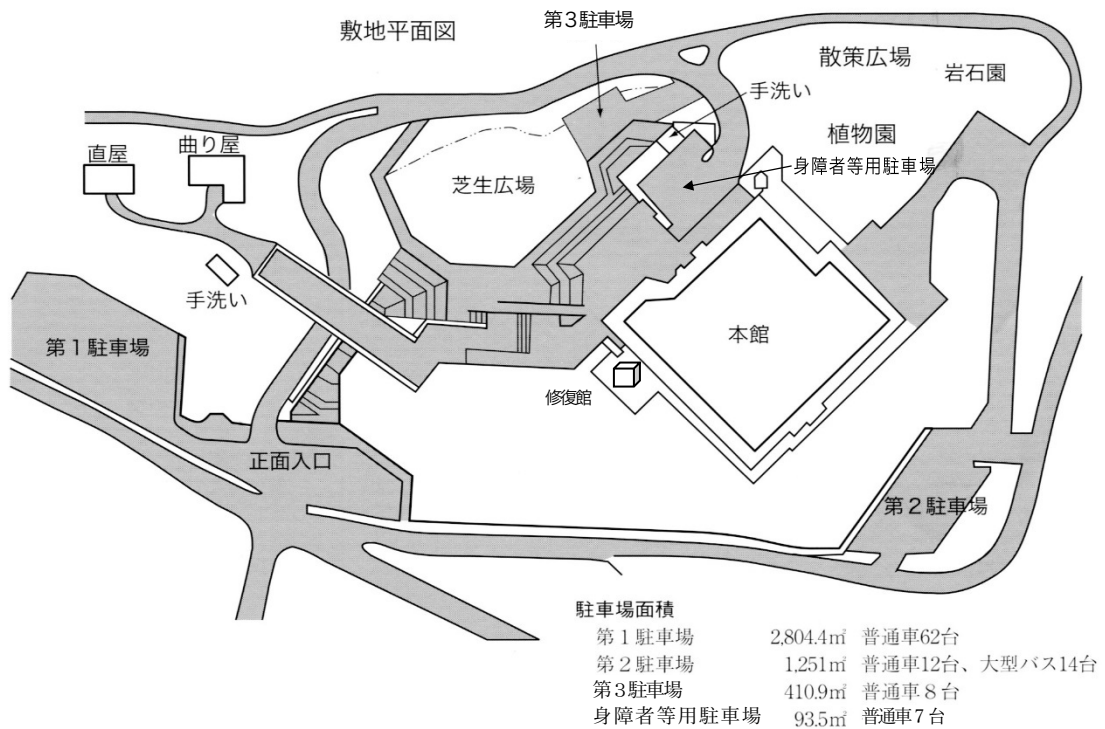
〈総工事費〉 44億3,000万円

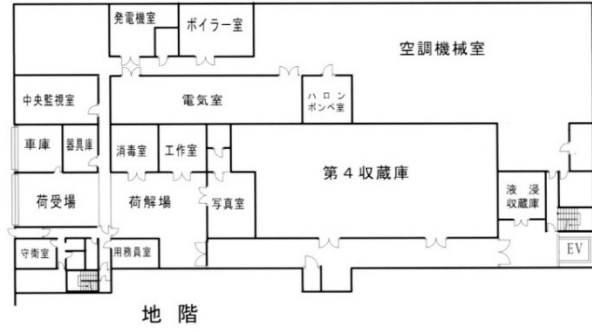
〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78㎡ ●建築面積 5,192㎡ ●延床面積 12,051.56㎡

※仮設施設の面積等は含んでいない

### (2) 配置図・展示室等平面図





(3) 各室面積表

部屋名	面積(m <sup>2</sup> )
空調機械室	766.09
発電気室	50.26
蓄電気室	9.71
ボイラー室	64.36
中央監視室	64.67
電話交換機室	8.89
電気室	142.54
ハロンボンベ室	37.86
消火栓ポンプ室	17.14
エレベーター機械室	20.52
第4収蔵庫	464.48
第5収蔵庫(液浸)	39.72
エレベーターシャフト	18.24
車庫	38.33
器具庫	25.24
消毒室	37.86
工作室	35.90
暗室	11.91
作業室	4.06
写真室	52.94
荷受場	79.63
荷解場	113.75
用務員室	26.39
守衛室	18.00
宿直室	21.17
湯沸室	3.81
浴室	5.71
便所	6.75
タラップ室	6.75
フォークリフト置場	12.75
廊下・階段・その他	280.32
小計	2,485.75
いす保管庫	98.61
外部用倉庫	20.38
教室	81.07
準備室	22.83
実技室	115.66
便所	29.02
講堂	164.09
効果室	14.50
ホワイエ	68.29
タラップ室	5.14
廊下・その他	232.78
小計	852.37

部屋名	面積(m <sup>2</sup> )
いわて自然史展示室	729.27
パネル倉庫	35.56
風除室	3.21
受付	18.65
印刷室	8.50
事務室	116.01
館長室	43.33
応接室	41.40
会議室	64.23
倉庫	14.25
身障者便所	6.47
No.3便所	43.85
No.2便所	39.67
音響調整室	20.84
同上前室	10.28
予備室	32.07
ロッカー室	10.45
女子更衣室	20.55
学芸調査室	236.04
歴史整理室	59.21
書庫	113.36
民俗整理室	35.84
考古整理室	35.84
生物整理室	25.10
地質整理室	25.20
歴史整理室	35.43
第1資料登録室	21.90
化学分析室	41.66
物理分析室	53.94
デジタルサイネージ編集室	20.72
第1収蔵庫	365.15
第2収蔵庫	188.25
第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18
第2書庫	42.69
ジオラマ下部	119.13
グランドホール	133.19
ロビー1	101.79
ロビー2	35.84
階段・廊下・その他	888.10
小計	4,454.53

部屋名	面積(m <sup>2</sup> )
総合展示室	1,553.85
県土の誕生	102.35
いわての夜明け	187.60
いわてのあゆみ	743.20
庶民のくらし	210.00
いわての今	310.70
いわて文化史展示室	489.07
ミニプラザ(1)	210.42
ミニプラザ(2)	129.50
特別展示室	292.20
映像室	124.00
No.4便所	30.11
体験学習室	217.17
厨房	54.93
休憩室	160.08
休憩室便所	10.98
厨房事務室	10.24
厨房便所	4.16
食品庫	6.90
グランドホール	213.66
階段・廊下・その他	618.20
小計	4,125.47
塔屋	133.44
合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 m<sup>2</sup>
- 収蔵庫面積 1,665.98 m<sup>2</sup>
- 学芸調査室 236.04 m<sup>2</sup>
- 研究室 274.91 m<sup>2</sup>

### 3. 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。平成30年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：平成31年1月24日(木)

場所：岩手県立博物館会議室

協議事項：平成29年度博物館協議会の意見等への対応状況について

平成30年度博物館事業実施状況について

平成31年度博物館事業計画(案)について

運営全般について

#### 岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 平成31年（令和元年）6月22日まで）

氏名	職	分野
及川政己	盛岡市立東松園小学校長	学校教育 県小学校長会
佐藤進	盛岡市立上田中学校長	学校教育 県中学校長会
小田島正明	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
松田恵美子	岩手県青年団体協議会会長	社会教育
大沢リツ子	特定非営利法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
玉館誠	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	社会教育
齋藤桃子	石神の丘美術館主任学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
星俊也	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
細越千絵子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県立博物館友の会
千葉陽介	(株)岩手日報社編集局学芸部次長	学識経験者
松政正俊	岩手医科大学教授	学識経験者
菅野文夫	岩手大学教授	学識経験者
飯坂真紀	画家・民俗芸能研究者	学識経験者
沼里由紀子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者

(平成30年9月1日現在)

### 4. 予算

(単位:千円)

項目	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
管理運営費	174,216	175,957	170,462	-	-	-	-	-
総務企画調整費	-	-	5,243	3,759	4,172	3,945	3,782	5,317
展示活動費	13,372	17,775	11,673	10,074	7,090	10,826	8,115	3,949
資料収集保管活動費	41,262	40,659	40,319	29,894	27,599	21,846	21,983	22,817
調査研究活動費	4,487	4,811	7,273	7,326	7,585	7,276	7,304	7,556
教育普及活動費	5,465	5,450	1,987	1,633	1,683	1,798	1,558	1,616
業務管理費	-	-	-	37,699	34,282	34,155	33,251	32,439
指定管理者事業費	-	-	-	127,861	130,034	129,269	132,832	131,395
計	238,802	244,652	236,957	218,246	212,445	209,115	208,825	205,089
項目	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
総務企画調整費	4,471	3,984	3,807	3,442	3,882	3,401	3,380	3,328
展示活動費	7,443	6,619	6,811	7,589	9,686	11,321	8,262	6,198
資料収集保管活動費	20,911	21,109	21,446	19,911	20,086	18,304	18,951	18,342
調査研究活動費	6,921	6,703	6,611	5,956	4,986	3,438	3,428	3,460
教育普及活動費	1,664	1,770	1,515	1,295	1,275	444	454	507
業務管理費	32,122	32,529	33,880	35,950	36,277	34,449	34,735	40,379
指定管理者事業費	132,600	130,502	130,401	133,050	132,345	134,334	134,146	136,914
計	206,132	203,216	204,471	207,193	208,537	205,691	203,356	200,834

※ 1 職員の人件費を除く

2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成27年度は特別展「近代へのとびら」展、平成28年度は特別展「スポーツ博覧会 いわて」展開催に係る特別予算を加算した。

3 総務企画調整は17年度から項目を起こした。

4 18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。

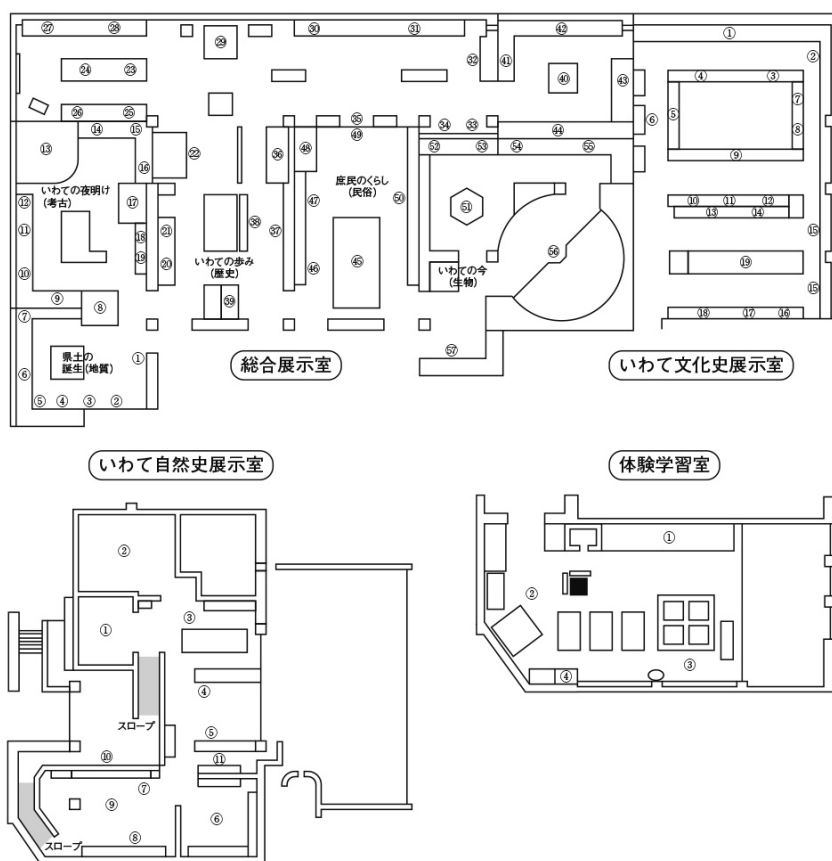
## 5. 事業の概要

### (1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集してきた資料、入手困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきたが、平成 30 年度(2019 年 3 月 31 日)までに収蔵されている博物館資料の総点数は、310,044 点に達した。その中で、常設展示されるものはわずか 2,000 点程度であり、残りの資料は複数の収蔵庫に保管されている。この保管資料については、季節や年中行事にあわせた展示替えやトピック展示の際に活用し、多くの県民の目に触れることが出来るよう、心がけている。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古部門に関連する資料、いわて自然史展示室には地質・生物など、自然史に関するより専門的な資料が展示され、この他にエントランスホールやミニプラザでのトピック展示を増やすなど、それぞれが充実した内容となっている。

平成 30 年度は、企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」、テーマ展「祈りにみる動物たち」、同「岩手の往来～道路のいま・むかし～」、地域展「未来への約束 語りはじめた気仙のたからもの」、新収蔵資料展を開催した。また館外においては、岩手県文化振興事業団による埋蔵文化財センター・県立美術館などとの合同移動展を、陸前高田市コミュニティセンターで3日間開催した。



展示室配置図

## ア. 展示構成

### エントランスホール

- ・兜跋毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手の眺望

### 総合展示室

- 県土の誕生(地質)
- 1 県土のおいたち
  - (1) 東北地方の地下断面
  - (2) 気仙隕石
  - (3) 岩手県の地質と岩石
- 2 いわたの古生物相の変遷
  - (4) 生命史以前
  - (5) 古生代の生きもの
  - (6) 中生代の生きもの
  - (7) 古第三紀～新第三紀の生きもの
  - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの
- いわたの夜明け(考古)
- 3 旧石器時代
  - (9) 氷河期の人びと
- 4 土器の時代
  - (10) 岩手の縄文土器
  - (11) 貝塚の形成
  - (12) 埋葬と装飾品
  - (13) 縄文人の暮らし
  - (14) 大洞文化
- 5 稲作を始めた時代
  - (15) 弥生文化と岩手
- 6 古墳を築いた時代
  - (16) 拓かれる北上平野
  - (17) 群集墳
  - (18) 集落と住居
  - (19) 生産技術の変革
- いわたの歩み(歴史)
- 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
  - (20) 古代の城柵
  - (21) 安倍氏の台頭
  - (22) 奥州平泉とその文化
- 8 戦乱の時代とその文化(中世)
  - (23) 文治五年奥州合戦
  - (24) 豪族たちの動きと庶民
  - (25) 新しい仏教文化
  - (26) 九戸政実の乱
- 9 藩制時代の人々(近世)
  - (27) 藩政の確立
  - (28) 凶作と一揆
  - (29) 盛岡城と町づくり
  - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
- (32) 街道と舟運
- (33) 藩学と寺子屋
- (34) 先駆者たち
- (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
  - (36) 生活の洋風化
  - (37) 岩手県の誕生
  - (38) 明治時代から大正時代へ
  - (39) 太平洋戦争
- 11 古美術
  - (40) 罫
  - (41) 絵画・工芸
  - (42) 刀剣
  - (43) 絵画・工芸
  - (44) 絵画
- 庶民の暮らし(民俗)
- 12 家の暮らし
  - (45) いろり
  - (46) 正月の行事
  - (47) 庶民の信仰
- 13 働く人びと
  - (48) 農村の人びと
  - (49) 漁村の人びと
  - (50) 山村の人びと
- 14 まつりと芸能
  - いわたの今(現勢・生物)
- 15 わたしたちの郷土いわた
  - (51) 岩手県地形模型
  - (52) 岩手の四季
  - (53) 県の鳥・木・花
- 16 恵まれた自然
  - (54) 岩手の風土
  - (55) 山や川の生き物
  - (56) イヌワシの山
  - (57) 豊かな海

### いわた自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き  
—鉱物コレクション—
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と  
被災文化財等救援活動

### いわた文化史展示室

- 考 古
  - (1) 岩手の土器
  - (2) 北上山系の洞穴遺跡
  - (3) 岩手の石器と鉄器
  - (4) 三陸の貝塚
  - (5) 豊岡遺跡
  - (6) 柳之御所遺跡
- 歴 史
  - (7) 中国古印
  - (8) 信仰
  - (9) 近代
  - (10) 板碑
  - (11) 江戸時代の貨幣
  - (12) 藩政時代の村
- 民 俗
  - (13) 森口多里コレクション
  - (14) オンラサマ・養蚕
  - (15) 懐かしいミシン
  - (16) 郷土料理
  - (17) いわたの民芸
  - (18) 江戸末～大正時代の御膳
  - (19) 南部絵暦
  - (20) むかしの暮らし大図鑑

### 体験学習室

- (1) 身につける  
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす  
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ  
かるた、板がえし等
- (4) よむ

### 屋外展示

- 民 家
  - ・直屋 旧藤野家住宅(重文)  
奥州市江刺区伊手御堂
  - ・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)  
下閉伊郡岩泉町指畑
- 散策広場
- ・植物園  
県内の植物等345種
- ・岩石園  
火山岩、変成岩、堆積岩50種

## イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

長期間の展示による資料の劣化・退色防止、季節や年中行事などにあわせた展示とするため、常設展示では不定期に展示替えを行っている。また、企画展やテーマ展に間接的に関わる資料や、夏休み・冬休みを主体として子供向けの資料をトピック展示した。

表1(1)-1 平成30年度の主な展示替え・トピック展

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日	担当
1	グランドホール	トピック展	知られざる切手の世界	切手で日本一周 動物の切手 名画の切手 アニメと切手	30.3.10～4.15	原田
2	いわて自然史展示室	トピック展	岩手博物界の太陽鳥羽源蔵を知る	陸前高田市立博物館所蔵の植物押し葉標本	30.4.3～5.6	鈴木
3	総合展示室(庶民のくらし)	トピック展		五月人形	30.4.8～5.27	近藤
4	いわて文化史展示室	展示替え		チャグチャグ馬コ	30.4.8～5.27	近藤
5	総合展示室(県土の誕生) いわて自然史展示室	展示替え		アンモナイト、三葉虫、魚類化石ほか10点	30.4.～	望月
6	総合展示室(庶民のくらし)	展示替え		常居のキャプション替え	30.5.1～	米田
7	いわて自然史展示室	トピック展	フンチュウ	ダイコクコガネ、オオセンチコガネほか	30.5.2～5.13	渡辺
8	グランドホール	トピック展	腕足動物の世界	キルトスピリファールほか	30.5.8～5.26	望月
9	総合展示室(庶民のくらし)	展示追加		長持	30.5.9～	米田
10	ミニプラザ	トピック展	愛鳥週間「フクロウ」	フクロウ類剥製等16点、写真4枚	30.5.11～7.20	藤井
11	いわて文化史展示室	展示替え	夏の風物詩	扇風機、蚊帳、蠅取り器ほか	30.5.29～10.22	近藤
12	いわて文化史展示室	展示替え	むかしのくらし大図鑑(炊事道具)	手回し洗濯機、トースター、ハンドミキサーほか	30.5.29～	民俗部門
13	いわて文化史展示室	展示替え	懐かしいミシン	電動ミシン、足踏みミシン	30.5.29～	民俗部門
14	階段展示	展示替え		恐竜縮小復元骨格1点	30.6.～	望月
15	いわて文化史展示室	展示追加	むかしのくらし大図鑑(居間)	ランドセル、教科書ほか	30.6.28～	民俗部門
16	体験学習室	トピック展	七夕飾り	笹・短冊等	30.7.1～8.17	米田
17	いわて自然史展示室	夏休み特別展	いわてと世界のカブト・クワガタ	カブト・クワガタ	30.7.3～8.17	渡辺
18	ミニプラザ	トピック展	全国の郷土玩具	人形	30.7.21～9.12	近藤
19	いわて自然史展示室	トピック展	夜鳴く鳥・奇妙な声の鳥・夜活動する獣	コノハズク・ブッポウソウ・アオバト・ジュウイチ・トラツグミ・ヨタカ・ムササビ・ニホンモモンガ8種類	30.7.24～	生物部門
20	グランドホール	トピック展	モンリョウとその仲間たち	エドモントサウルスほか	30.7.24～8.26	望月
21	文化史展示室	展示替え	古代たたら製鉄	鉄滓類・羽口・鉄砧石・鉄鉗	30.8.24～10.28	小山内
22	いわて文化史展示室	展示替え	江戸時代末～大正時代の御膳	漆塗膳、磁器皿等	30.8.12～	米田
23	いわて文化史展示室	展示替え	森口多里コレクション	民俗学者森口多里関連資料:写真、ノート、切菓子ほか	30.8.12～	木戸口
24	総合展示室(いわての夜明け)	展示替え	縄文人の装飾	珧状耳飾り	30.9.13～12.6	金子
25	いわて文化史展示室	展示替え	古代末期の土器	岩手町沼崎遺跡出土土器	30.11.1～ 31.2.28	濱田
26	いわて自然史展示室	トピック展	シカ・カモシカ展	シカ・カモシカ剥製・骨格	30.9.11～12.9	生物部門
27	ミニプラザ	トピック展	千支展「亥」	イバシシ等剥製標本	30.12.11～ 31.2.24	生物部門
28	いわて自然史展示室	トピック展	世界の昆虫展	トゲアシフトナナフシ等	30.12.11～ 31.2.24	生物部門
29	いわて文化史展示室	展示替え	昔のくらし大図鑑(あたたまるもの)	火鉢、カイロ、湯たんぽ、灰ならし等	30.10.28～ 31.2.24	近藤
30	グランドホール・総合展示室	トピック展	東日本大震災で被災した博物館資料再生の歩み	被災修復資料・染織品	30.12.12～ 31.3.12	文化財科学

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日	担当
31	ミニプラザ	トピック展	明治150年 - 盛岡藩の戊辰戦争	戊辰戦争関連文献・文書・瓦版・錦絵等	30.12.11～ 31.2.24	武田
32	総合展示室(庶民のくらし)	展示替え	雛人形	享保雛、芥子雛、花巻人形	31.2.15～ 元.6.5	民俗部門
33	ミニプラザ	トピック展	干支展「猪」	猪の図・鏝・切手・郷土玩具「猪」・盛岡暦	30.12.11～ 31.2.24	鈴木 原田 米田
34	グランドホール、ほか	トピック展	今を生きる恐竜たち	マダラハゲワシほか	31.2.26～4.6	渡辺

## ウ. 特別展示の概要

平成30年度は以下の企画展・テーマ展等を開催した。合同移動展は公益財団法人岩手県文化振興事業団の主催事業で、当館・美術館・埋蔵文化財センター・県民会館の4事業所が陸前高田市を会場として実施した。

表1(1)-2 平成30年度の企画展・テーマ展・地域展・合同移動展

種別	名称	会期
地域展	「未来への約束 語りはじめた気仙のたからもの」	平成30年4月3日(火)～5月6日(日)
企画展	「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」	平成30年6月2日(土)～8月19日(日)
テーマ展	「祈りにみる動物たち」	平成30年9月22日(土)～11月25日(日)
新収蔵展	新収蔵資料展	平成30年12月15日(土)～平成31年2月24日(日)
テーマ展	「岩手の往来～道路のいま・むかし～」	平成31年3月16日(土)～令和元年5月6日(月・振)
合同移動展	「文化・芸術が集うとき in 陸前高田市」	平成30年11月22日(木)～11月24日(日)

### (ア) 地域展「未来への約束 語りはじめた気仙のたからもの」

東日本大震災発災の年の4月2日から安定化処理が連続と続けられている。それにより現在陸前高田市から救出された18万点余りの資料を再生することができた。平成30年3月3日から3月28日のPart1に続き開催された本展覧会では、再生された岩手県指定文化財『吉田家文書』及びその関連資料、国登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」、出土刀剣類、陸前高田の年中行事、アクリル画と水彩画、音の再生に成功したリードオルガンを取り上げ、その再生のために構築された安定化処理方法の概要を解説した。また、安定化処理の過程で実施された様々な調査結果を集成し、気仙地方の古代から近現代における生活の一端を、イラスト画を多用しながら分かり易く解説した。

陸前高田市立博物館には多数の漫画本が収集されていた。これは、漫画がやがて近世における浮世絵と同じ役割を果たすという思いのもと、津波で亡くなられた学芸員が収集してきたものである。今回は、再生された漫画コレクションに加え、女子美術大学、漫画家・萩尾望都先生、株式会社小学館の御理解と御支援をいただき、ポーの一族関係資料を特別出品していただくと共に、萩尾望都先生と女子美術大学・内山博子先生による特別講演会や、女子美術大学生による似顔絵作画イベントを開催した。

会期:平成30年4月3日(火)～平成30年5月6日(日)

会場:特別展示室、ミニプラザ

会期中の入館者数:7,225人

#### 〔展示内容〕

(1) 気仙の記録をつなぐ ―吉田家文書―

定留・永留・御用永留帳(個人蔵)、気仙隕石実物破片(陸前高田市立博物館蔵)。

(2) 東日本大震災発災から7年

津波で止まった時計(陸前高田市立博物館蔵)。発災から再生の歩みを映像で紹介。



(3) 気仙のくらし —産金—

木造観音菩薩坐像・木造勢至菩薩坐像(光勝寺蔵:岩手県指定有形文化財)、産金の道具と粉鉱石、自然金、俵牛(写真)。

(4) 気仙のくらし —古代の武具—

蕨手刀3振り(陸前高田市立博物館蔵)、定留(個人蔵)。日本刀成立の要素の一つである弯刀化の過程を3振りの蕨手刀で解説。定留から、幕末の仙台藩における鉄生産に関わる記事を紹介。

(5) 過去と未来をつなぐメディア —漫画—

定留(個人蔵)、漫画コレクション(陸前高田市立博物館蔵)。定留から、狼退治、鹿皮の細工技術、馬産、椎茸栽培に関わる記事を紹介しイラスト画で解説。再生された漫画資料を処理工程とともに紹介。

(6) 気仙のくらし —広田湾の漁撈—

カンバン、ナマコヒキ、イカ釣り道具、磯物採取道具など(陸前高田市立博物館蔵:国登録有形民俗文化財)。漁撈用具の再生方法のほか、各用具の使用方法についてイラスト画で解説。

(7) 気仙のくらし —高田の年中行事—

こいのぼり・吹き流し、陣笠、陣羽織、虎舞幕・頭、縮緬地被布、ハッピ【猪熊弦一郎】(陸前高田市立博物館蔵)。

(8) 失われた気仙地方の景観

蓑虫山人「気仙郡日記」(長母寺蔵)、高田松原に関する石碑の拓本、日本百景選定書、高田松原関係自然史標本(陸前高田市立博物館蔵)。

(9) 再生された絵画

柳下彰平「海辺の小屋」、船渡重蔵「ころがしぶち」、行木正義「作品 82」、猪熊弦一郎「顔」「顔・唄」「裸子と鳥」(陸前高田市立博物館蔵)

(6) 音の再生に成功したリードオルガン

海保オルガン製リードオルガン(陸前高田市立博物館蔵)。わが国に現存する3台のうちの1台。3年にわたる措置によって音の再生に成功した。

(7) 海を越えた絆

実習船かもめ(陸前高田市立博物館蔵)。同船は津波被災し、約2年半かけて米国カルフォルニア州クレセント市に漂着した後、地元高校生によって再生され、所有者である県立高田高等学校に返却された。海を越えた友情の絆の証となっている。

(特別展示)

ポーの一族 原稿(予告カット)

【関連事業】

I. 特別講演会 会場:講堂

①4月15日(日)13:30~15:00 「吉田家文書にみる気仙のくらし」

講師:兼平賢治氏(東海大学講師) 聴講者44人

②4月22日(日)14:00~15:30 「ポーの一族の世界 —漫画の魅力—」

講師:萩尾望都氏(漫画家・女子美術大学客員教授) 司会:内山博子氏(女子美術大学教授) 聴講者174人

II. 展示解説会 会場:特別展示室

①4月15日(日)11:00~12:00

解説者:兼平賢治氏(東海大学講師)、鈴木まほろ、赤沼英男(当館学芸員) 参加者10人

②4月28日(土)14:30~15:30

解説者:兼平賢治氏(東海大学講師)、鈴木まほろ、赤沼英男(当館学芸員) 参加者9人

III. 音の再生に成功したリードオルガン演奏会「奇跡のオルガン —よみがえる ほほえみの音色—」

会場:特別展示室

4月29日(土) ①11:00～12:00 ②14:00～15:00

演奏:箱木禮子氏(日本リードオルガン協会東北支部長) 鑑賞者56人

IV. まんが似顔絵 会場:教室

5月3日(木)～5月5日(土) 各日10:00～12:00、13:00～16:00

女子美術大学学生の皆さんが来場者の方々をモデルに「まんが」で似顔絵を作画 参加者120人

V. 県博日曜講座 講堂 当日受付 聴講無料

4月8日(日) 13:30～15:00

「救出された資料が語る気仙のくらし ー漁撈、製鉄、産金に視点を当ててー」

講師:赤沼英男(展覧会担当学芸員) 聴講者29人

〔印刷・広報物〕

ポスター 500部 チラシ 35,000部

(イ) 第69回企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」

クモは誰もが知る身近な存在だが、その生態についてはあまり知られていない生き物である。本企画展では、昆虫と比較しながら、形態の違いや狩りの方法、毒、生活史を解説したほか、岩手県内で見られる身近なクモを中心に、様々な環境ごとのクモ相の違いや多様性を写真や標本により紹介した。また、人とクモとの文化的な関わりについて、クモの意匠が見られる文化財を展示したほか、県内や全国各地に残る言い伝えや民話、生活の中での人とクモとの関係を紹介した。

会期:平成30年6月2日(土)～8月19日(日) 72日間

会場:特別展示室・グランドホール

会期中の入館者数:13,509人

〔展示内容〕

序章 クモにまつわる言い伝え

第1章 蜘蛛の文化史

第2章 クモはどんな生きものか

第3章 クモの狩り

第4章 クモの一生

第5章 岩手の魅力的なクモたち

第6章 クモを調べる

終章 クモは好きですか

〔関連事業〕

I. 展示解説会 各回 14:30～15:30 特別展示室 要入館料

2018年6月17日(日)、7月14日(土)、8月18日(土)

II. 子ども向け展示解説会 各回 10:30～11:30 特別展示室 要入館料

①7月28日(土) ②7月30日(月) ③8月11日(土・祝)

III. 県博日曜講座 各回 13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料

6月10日(日)「わかればきっと好きになる・クモ」 渡辺修二(展覧会担当学芸員)

6月24日(日)「あなたもハエトリグモを探したくなる！」 須黒達巳氏(慶応義塾幼稚舎教諭)

IV. 自然観察会「クモを見つけよう! in 小鹿公園」

7月1日(日) 会場:盛岡市三ツ割小鹿公園

V. ミニ観察会「クモを見つけよう! in 岩手県博」 会場:博物館敷地内

①6月17日(日) ②7月28日(土) ③7月30日(月) ④8月11日(土・祝) ⑤8月18日(土)

#### 〔印刷物〕

ポスター B2、カラー印刷、500部

リーフレット A4、両面カラー、10,000部

いわはく子ども新聞 A4、両面カラー、65,000部(県内の全小学生児童に配布)

図録 A4、カラー印刷、64ページ、500部

#### (ウ) テーマ展「祈りにみる動物たち」

岩手県には、動物にまつわる様々な信仰や芸能などが残されており、それらの中に人々の信仰のあり方や厳しい自然の中で暮らす心の拠りどころを見出すことができる。自然とのつながりが深く、動物たちとも密接な関係にあった人々が動物をどのように利用し、どのような力を見出し、祈り・願ってきたのかを県内に残る資料(総展示資料数378点)をもとに紹介した。

人と動物との関係は、時代ごとに大きな変容を遂げている。動物は生活になくてはならない身近な存在であるとともに、恐れ敬われる対象でもあった。第1章では身近な存在としての動物の姿を、第2章では動物が持つとされる不思議な霊力や俗信にみられる動物たちの怪奇的な面を紹介、第3章では県内の馬・猿・牛・狐・狼・猫にまつわる信仰に焦点をあてた。第4章では仏教思想の中でどのように動物がとらえられてきたのかを、第5章では県内各地にのこる生き物供養碑から日本人の動物観を考察し、第6章では動物にまつわる郷土玩具を紹介した。

会期:平成30年9月22日(土)～平成30年11月25日(日) ※実公開日数56日

会場:特別展示室

会期中の入館者数:10,249名(開幕前日=プレオープンの入館者数も含む)

#### 〔展示内容〕

プロローグ ～馬と祭祀～

第1章 暮らしのなかの動物たち ～飼う・獲る・治す・愛でる～

第2章 動物をめぐる伝承と俗信 ～まじなう・誓う・化ける～

第3章 神の使いとなった動物たち ～馬・猿・牛・狐・狼・猫～

第4章 あの世と動物たち ～不殺生・輪廻転生・因果応報～

第5章 魂を弔う ～供養と慰霊～

第6章 郷土玩具にみる動物たち ～おもちゃに願いを込めて～

エピローグ ～変容する動物観～

トピック展 民俗芸能装束にみる動物たち

#### 〔関連事業〕

I. 展示解説会 各回14:30～15:30 特別展示室 要入館料

①9月30日(日) ②10月20日(土) ③11月10日(土) 合計\*\*

II. 県博日曜講座 各回13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料

10月14日(日) 「動物をめぐる俗信と伝承動物 ～狐はなぜ化ける～」

講師:近藤 良子(展覧会担当学芸員)

10月28日(日) 「動物神霊と信仰 ～江刺地方を中心に～」

講師:野坂 晃平氏(えさし郷土文化館学芸員)

III. 文化講演会 13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料

11月3日(土) 「馬と人の恋 ～遠野物語とオシラ神～」

講師:前川さおり氏(遠野文化研究センター学芸員)

#### IV. 岩手県立図書館×岩手県立博物館連携企画「ホン×モノ コラボ」

9月29日(土)～11月29日(木) 県立図書館3F ミニ展示コーナー

※ スタンプラリー:博物館テーマ展「祈りにみる動物たち」と図書館を巡って両展のスタンプを集めた方に、オリジナルポストカード(いわての動物たち)をプレゼント。

#### V. いわての動物写真展

9月29日(金)～10月5日(金) 9:00～16:30

屋外展示 旧佐々木家住宅

#### VI. 民俗芸能団体招聘 第10回岩手県立博物館まつり「芸能鑑賞会」

10月7日(日) 芝生広場 鑑賞無料

12:00 民謡 山上 衛氏 演目:「南部牛追い唄」「チャグチャグ馬コ」ほか

13:00 二子鬼剣舞公演 演目:「狐剣舞」ほか

#### 〔印刷物〕

ポスター B2、カラー印刷、500部

リーフレット A4、両面(表:カラー印刷、裏:2色刷)、11,000部

### (エ) テーマ展「新・収蔵資料展～平成25(2013)年度からの新コレクション～」

平成25年度以降に当館が新たに収集した資料を展示し、広く県民に紹介・公開することにより、資料保管活動の成果を県民へ還元するとともに博物館に対する理解を深める。

会期 平成30年12月15日(土)～平成31年2月24日(日) ※実公開日数57日間

会場 特別展示室

会期中の入館者数 7,743人

#### 〔展示内容〕

第一章 民俗1ーくらしの彩りー

第二章 地質ー鉱山技師の仕事と白亜紀の動物ー

第三章 考古ー不思議な縄文土器と古代の瓦ー

第四章 歴史ー美・戦争・新技術ー

第五章 民俗2ーくらしの美ー

第六章 生物ー豊かな生物多様性の証<sup>あかし</sup>ー

#### 〔関連事業〕

##### I. 展示解説会 各回14:30～15:30 特別展示室 要入館料

①2018年12月16日(日) ②2019年2月10日(日) 参加計20人

##### II. 県博日曜講座 各回13:30～15:00 当日受付 聴講無料

1月13日(日) 「岩手の金工～新収蔵の金銀細工～」 教室

講師 木戸口俊子(当館学芸課長) 聴講者33名

1月27日(日) 「ストーンサークルと切断蓋付土器の時代ー3,800年前の北日本の縄文文化ー」

講師 金子昭彦(当館学芸員) 教室 聴講者45名

2月24日(日) 「いわて・古代から中世の瓦のはなし」 講堂

講師 鎌田勉氏(県教育委員会文化財課長) 聴講者35名

#### 〔印刷物〕

ポスター B2、カラー印刷、500部

リーフレット A4、両面(表:カラー印刷、裏:2色刷)、10,000部

## (オ) テーマ展「岩手の往来 ～道路のいま・むかし～」

日々近代的な道路の建設が各所で行われ、私たちの生活は一段と便利になり多大の恩恵を受けています。地域開発に伴う交通網の整備は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的要請とも考えられますが、その反面、本県の歴史を知る上で重要な意味を持つ交通遺跡が次第にその姿を消しているのも事実です。

このテーマ展では、参勤交代や蝦夷地開発、ロシアからの蝦夷地防衛のための往来に活用された奥州街道、また現在も宮古盛岡横断道路として開発が進み、復興の一役を担うかつての宮古街道を中心に、失われた時空と未来に向けての展望について触れていくものです。

会期:平成31年3月16日(土)～令和元年5月6日(月) ※実公開日数46日間

会場:特別展示室

会期中の入館者数: 11,974人

### 〔展示構成と主な出品資料〕

#### 序章 魅力あふれる岩手

岩手観光鳥瞰図原図、巖手縣管内圖、釜石町鳥瞰図、岩手の絵葉書・石割櫻

錦絵「府県名所図会・岩手県陸中宮古浦景」、みちのくの花巻

版画 釜石・尾崎白浜之図、水沢町及付近鳥瞰図、日本百景・東北十景 高田松原など

#### 第1章-1 盛岡藩を中心とした藩政時代の往来①～街道改修の礎～

南部藩大名行列図(岩手県立図書館蔵)、増補 行程記(もりおか歴史文化館蔵)

参勤行列図巻、槍銘濃州之住長俊(県指定有形文化財)、向鶴紋蒔絵陣笠(館蔵)など

#### 第1章-2 盛岡藩を中心とした藩政時代の往来②～重要度を増す奥州道中・仙台道・松前道～

寛政五年六月八日入港・七月十七日退帆函館渡来露船エカテリナ号乗組員像(函館市中央図書館・画像借用)

大黒屋光太夫 磯吉 画幅(鈴鹿市資料館・画像借用)

蝦夷地区図、三国通覧図説、蝦夷闔境輿地全図、陸奥日記(舟橋の写生箇所)(館蔵)

大日本全国之内奥州一円誌など

#### 第2章 大正・昭和初期の地区にみる藩政時代 奥州街道の宿場

一關、水澤、黒澤尻、花巻、日詰、盛岡、厨川村(参考)、(各5万分の1地図・館蔵)など

#### 第3章 五十集の道～盛岡城下と宮古を結ぶ宮古街道～

閉伊街道図(盛岡城下上小路～現宮古市川井及び完成図)、戸川通往還難所工事諸留(岩手県立図書館蔵)

御城下ヨリ宮古迄街道図面、宮古通図折図、南部領海陸分間図縮図(もりおか歴史文化館)

牧庵鞭牛和尚の開削道具、道供養橋野村林宗六世「岡村 岩屋の道供養碑」(宮古市指定文化財)、牧庵鞭牛道供養碑・宮古墓目大平 熊の穴(宮古市指定文化財)(宮古市教育委員会 文化課・画像借用)

南部領閉伊郡之図(館蔵)、鍛冶町一里塚跡、鉞屋町 宮古街道・遠野街道分岐点、

道標・供養碑 砂溜(盛岡市指定文化財)、飛鳥口の古碑(道標・庚申供養塔)(盛岡市指定文化財)

牧庵鞭牛和尚修道碑 川内・流月院、庚申供養塔・夏屋口(撮影写真)など

#### 第4章 宮古街道・変動の時代～昭和40年代と50年代のルート比較～

岩洞門、大峠トンネル工事、宮古通絵図、災害復旧工事記念(アイオン台風)、

飛鳥建設株式会社 社史・下巻(部分)、盛宮自動車、川井村 案内標識、

新里村 案内標識、夏屋橋、與部沢橋、学制頒布五十年記念巖手縣下閉伊郡志、

現在の区界トンネル・開通当時の記録、宮古～盛岡・旧版地図(2万5千分の1地形図)など

#### 第5章 宮古街道・未来への展望

4 ブームジャンボ、宮古盛岡横断道路 国道 106 号・整備効果、トンネル工事の際に出た岩石など  
トピック：移動手段・交通標識の歴史を振り返る

錦絵「陸奥国野田玉川」、岩手県自動車路線図、大日本分県地図之内最新岩手県全図など  
デジタルサイネージ

鹿島建設 DVD…新区界トンネル工事の様子と宮古街道の改修に尽力した鞭牛和尚の内容を 17 分程度にまとめたもの(宮古盛岡横断道路 新区界トンネル工事事務所)

#### 〔関連事業〕

I. 展示解説会 各回 14:30～15:30 特別展示室 要入館料

① 3 月 21 日(木・祝) ② 4 月 6 日(土) ③ 5 月 4 日(土・祝)

II. 県博日曜講座 各回 13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料

3 月 24 日(日)「岩手の往来と藤田武兵衛」

講師：藺田貴弘(展覧会担当学芸員)

4 月 28 日(日)「岩手の道をつなぐ！宮古盛岡間最大の難所 区界峠の新しいトンネルと身近な土木」

講師：西川幸一氏(宮古盛岡横断道路 新区界トンネル工事 鹿島・東急特定建設工事共同企業体 工事事務所 所長)

#### (カ) 合同移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うとき in 陸前高田市」 『合同展～平成 30 年度岩手県立博物館移動展・第 39 回埋蔵文化財展』

これまでに岩手県立博物館では、博物館から遠隔地に当たり来館機会に恵まれない地域を対象として、当館の貴重な所蔵品や開催地にゆかりのある所蔵品を展示・紹介する「岩手県立博物館移動展」を開催してきた。平成 20 年度からは、岩手県立埋蔵文化財センターとの合同展(岩手県立博物館移動展・埋蔵文化財展)という形態で実施され、さらに平成 24 年度からは(公財)岩手県文化振興事業団の 4 事業所(埋蔵文化財センター・岩手県立美術館・岩手県民会館・当館)が一堂に会し行う事業「岩手県文化振興事業団プレゼンツ」の一環として行われている。

今年度の移動展は、前年度同様、合同展であることを意識し、埋蔵文化財センター・当館の 2 事業所におけるそれぞれの展示資料を一つの会場スペースで展示した。これにより、各事業所が日常どのような資料を対象として扱い、どのような研究・公開を行っているのかを伝えることができた。

会期：平成 30 年 11 月 22 日(木)～11 月 24 日(土) 3 日間

会場：陸前高田市コミュニティーホール

タイトル：『合同展～平成 30 年度岩手県立博物館移動展・第 39 回埋蔵文化財展』

会期中の来場者数：476 人

#### 〔展示内容〕

展示総数 73 点

1 考古 石棒 1 点(他、埋蔵文化財センターと合同展)

2 歴史 錦絵(武勇合戦寿古録)、平泉往来、鐔・拵 計 11 点

3 民俗 帽子掛けこけし、木地山こけし、高田人形、森口多里コレクション岩手県沿岸部の民俗写真など  
計 26 点

4 生物 動物剥製標本(イヌワシ成鳥・幼鳥)、押し葉標本、植物写真パネルなど 計 14 点

5 地質 気仙隕石、陸前高田市・大船渡市・釜石市産の鉱物、化石など 計 21 点

#### 〔関連事業〕

展示解説会 11 月 24 日(土)11:00～12:00

## (2) 教育普及活動

教育普及活動として、平成 30 年度は 34 件の事業を展開した。講座・観察会としては、県博日曜講座、自然観察会、地質観察会、考古学セミナー、古文書入門講座を開催し、子供向け事業では、10 回目の節目を迎えた「博物館まつり」をはじめ、毎週日曜日には「たいけん教室～みんなでためそう～」を、第2・第3土曜・日曜日には「チャレンジ! はくぶつかん」を実施した。また、9月を除く毎月第1土曜日には、講堂にて「ミュージアムシアター」を上映し、大人から子どもまで様々なプログラムを楽しんでいただいた。

夏・冬休み期間中の特別企画として「ワードパズル」「子ども向け定時解説」を設定し、今年度で3回目となる「ナイトミュージアム」は、8月に2日間にわたり実施、冬休みにはクリスマスイベントとして「ミュージアムコンサート」を開催し、いずれも好評を博した。また、昨年度はこれと同日に開催した「冬休みワクワク! ワークショップ」を今年度は年明けに行い、これにも多くの子どもたちや保護者の皆様に参加していただいた。この他、毎年5月の国際博物館の日に実施しているイベント「県博バックヤードツアー」にも多くの参加者を得た。

学習支援や社会教育事業としては、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用や教材貸し出しに対応するなど、積極的に働きかけを行った。

### ア. 開催事業

#### (ア) 展示付帯事業

表5(2)-1 平成30年度開催事業

■学芸員による展示解説会・講演会・ミニ観察会(展覧会/定時) 延べ370人

	期 日	曜日	講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
1	4月15日	日	兼平賢治ほか	地域展「未来への約束 語りはじめた気仙のたからもの」	10
2	4月28日	土	赤沼英男 鈴木まほろ	地域展「未来への約束 語りはじめた気仙のたからもの」	9
3	6月17日	日	渡辺修二	ミニ観察会「クモを見つけよう! in 岩手県博」	36
4	6月17日	日	渡辺修二	企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」	15
5	7月14日	土	渡辺修二	企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」	9
6	7月28日	土	渡辺修二	企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」子供向け解説会	39
7	7月28日	土	渡辺修二	ミニ観察会「クモを見つけよう! in 岩手県博」	32
8	7月30日	月	渡辺修二	企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」子供向け解説会	22
9	7月30日	月	渡辺修二	ミニ観察会「クモを見つけよう! in 岩手県博」	32
10	8月11日	土	渡辺修二	企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」子供向け解説会	29
11	8月11日	土	渡辺修二	ミニ観察会「クモを見つけよう! in 岩手県博」	16
12	8月18日	土	渡辺修二	ミニ観察会「クモを見つけよう! in 岩手県博」	6
13	8月18日	土	渡辺修二	企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」	14
14	9月30日	日	近藤良子	テーマ展「祈りに見る動物たち」	11
15	10月20日	土	近藤良子	テーマ展「祈りに見る動物たち」	10
16	11月10日	土	近藤良子	テーマ展「祈りに見る動物たち」	13
17	12月16日	日	各部門学芸員	テーマ展「新・收藏資料展」	9
18	2月10日	日	各部門学芸員	テーマ展「新・收藏資料展」	11
19	3月21日	木・祝	藪田貴弘	テーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし～」	7

■地域展特別講演会

※文化財科学[赤沼英男・丸山浩治]担当 延べ44人

	期 日	曜日	講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
1	4月15日	日	兼平賢治氏	「吉田家文書にみる気仙の暮らし」	44

■解説員による定時解説

延べ8,015人

月	成立回数	参加者数	対応時間(分)
4月	8	14	735
5月	8	17	630
6月	7	19	500
7月	16	70	1350
8月	24	278	1495
9月	3	5	200
10月	5	8	500
11月	8	19	800
12月	7	37	295
1月	11	87	465
2月	8	20	710
3月	4	12	335
合計	109	586	8015

\*平成25年度から毎日実施している。

■解説員による依頼解説(随時/常設)

延べ2,883人(264団体)

事業名	実施日	参加者数		総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室		団体数
				地質	考古	歴史	民俗	現勢生物	考古	歴史	民俗	地質	生物	
解説員による依頼解説	4月	学校等	135	4	4	4	3	3	0	0	0	0	0	135
		一般	9	3	3	1	1	1	0	0	0	0	0	9
	5月	学校等	196	2	1	2	1	1	0	0	1	0	1	2
		一般	7	3	2	3	2	2	0	0	0	0	0	3
	6月	学校等	96	4	2	2	1	2	0	0	0	0	0	4
		一般	97	6	7	7	4	4	0	1	1	0	0	8
	7月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	132	8	8	7	7	6	0	0	1	1	1	8
	8月	学校等	44	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		一般	65	7	5	5	6	7	0	0	0	1	1	8
	9月	学校等	498	4	2	1	2	2	0	0	4	1	1	6
		一般	93	5	8	8	6	4	1	1	0	1	1	10
	10月	学校等	297	3	2	2	3	2	0	0	2	1	0	5
		一般	74	6	6	7	6	6	1	1	1	1	1	7
	11月	学校等	316	5	2	2	8	3	0	0	7	0	0	7
		一般	72	137	9	6	4	4	2	0	2	0	0	9
	12月	学校等	86	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	3
		一般	43	5	5	5	5	5	0	0	0	3	0	9
	1月	学校等	44	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
		一般	59	2	3	3	4	1	0	0	0	4	2	9
	2月	学校等	402	3	3	4	8	3	0	0	6	0	0	9
		一般	30	4	5	4	4	4	0	0	0	1	1	5
	3月	学校等	58	2	1	0	1	2	0	0	1	0	0	2
		一般	30	3	3	3	3	4	1	1	1	1	2	4
		計		217	82	78	81	66	5	4	29	16	11	264



回数	期 日		当 番	テーマ	参加者数	月別参加者総数	備考
1	4月14日	土	作成:近藤良子 当番:近藤良子、濱田宏	宝	19	133	大人9
2	4月15日	日			72		大人31
3	4月21日	土			18		大人9
4	4月22日	日			24		大人13
5	5月12日	土	作成:濱田宏 当番:濱田宏、近藤良子	緑	55	184	大人21
6	5月13日	日			53		大人23
7	5月19日	土			44		大人26
8	5月20日	日			32		大人13
9	6月9日	土	作成:菌田貴弘 当番:菌田貴弘、金子昭彦	水	22	154	大人12
10	6月10日	日			47		大人20
11	6月16日	土			38		大人16
12	6月17日	日			47		大人19
13	7月7日	土	作成:金子昭彦 当番:金子昭彦、望月貴史	虫	52	320	大人21
14	7月8日	日			79		大人25
15	7月14日	土			54		大人21
16	7月15日	日			62		大人31
17	7月16日	月・祝			73		大人33
18	8月11日	土	作成:鈴木まほろ 当番:鈴木まほろ、菌田貴弘	海	80	371	大人22
19	8月12日	日			129		大人68
20	8月13日	月			59		大人28
21	8月18日	土			60		大人29
22	8月19日	日			43		大人19
23	9月15日	土	作成:小山内透 当番:小山内透、佐々木康裕	秋	27	190	大人13
24	9月16日	日			29		大人13
25	9月17日	月・祝			39		大人18
26	9月22日	土			16		大人8
27	9月23日	日・祝			41		大人20
28	9月24日	月・振			38		大人18
29	10月13日	土	作成:佐々木康裕 当番:佐々木康裕、菌田貴弘	動物	31	164	大人13
30	10月14日	日			53		大人41
31	10月20日	土			38		大人19
32	10月21日	日			42		大人19
33	11月10日	土	作成:武田麻紀子 当番:武田麻紀子、濱田宏	高い	30	187	大人13
34	11月11日	日			73		大人41
35	11月17日	土			42		大人19
36	11月18日	日			42		大人19
37	12月8日	土	作成:藤井忠志 当番:藤井忠志、米田寛	新	13	138	大人5
38	12月9日	日			34		大人13
39	12月15日	土			21		大人8
40	12月16日	日			70		大人28
41	1月12日	土	作成:山岸千人 当番:山岸千人、望月貴史	干支	49	199	大人20
42	1月13日	日			35		大人16
43	1月14日	月・祝			68		大人28
44	1月19日	土			12		大人6
45	1月20日	日			35		大人18
46	2月9日	土	作成:米田寛 当番:米田寛、佐々木康裕	飛ぶ	12	195	大人6
47	2月10日	日			56		大人27
48	2月11日	月・祝			55		大人27
49	2月16日	土			36		大人11
50	2月17日	日			36		大人17
51	3月9日	土	作成:木戸口俊子 当番:木戸口俊子、近藤良子	道	43	191	大人20
52	3月10日	日			42		大人20
53	3月16日	土			52		大人23
54	3月17日	日			54		大人25

※当館学芸員が毎月作成するワークシートを配布。(4月・7月・8月は「かんたんコース」と2種作成)

今年度は15名の最優秀チャレンジャー(全12回に参加した皆勤賞、7回目1名、5回目1名、4回目2名、2回目1名、1回目10名)が誕生した。

■ガマ・ワラ細工の実演

※民俗部門[近藤良子]担当 延べ8人

	期 日		講 師	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	5月13日	日	阿部茂巳氏		8	以降都合により休止

■民家での写真展

※学芸第三課[近藤良子]担当 延べ205人

	期 日		講 師	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	9月28日	金	後藤 靖行	いわての動物たち	19	
2	9月29日	土			51	
3	9月30日	日			34	
4	10月2日	火			60	
5	10月3日	水			16	
6	10月4日	木			7	
7	10月5日	金			18	

■「ワードパズル」

※学芸第三課[米田寛]担当 延べ711人

	期 日		シート作成者	テ ー マ	参加者数	備考
1	7月24日(火)～ 8月26日(日)		米田 寛	かんたん	156	
				ふつう	193	
				むずかしい	134	
2	12月18日(火)～ 1月11日(金)		米田 寛	かんたん	83	
				ふつう	75	
				むずかしい	70	

※当館学芸員作成のワードパズルの配布

■ナイトミュージアム～くらやみの中から語りかける資料を探る～

※学芸第三課[金子昭彦]担当 延べ57人

	期 日		時間	講 師 ・ 運 営	参加者数	備考
1	8月10日	金	17:30 ～ 18:30	<b>展示解説:</b> 山岸千人(地質)、藤井忠志(生物)、小山内透(考古)、原田祐参・佐々木康裕(歴史)、米田寛(民俗) <b>ツアーガイド:</b> 鈴木まほろ・望月貴史・濱田宏 <b>サポート:</b> 協栄テックス <b>連絡調整:</b> 金子昭彦	26	
2	8月11日	土・祝	17:30 ～ 18:30		31	

※平成28年度から行っている人気の事業である。

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」

※学芸第三課[米田寛・解説員]担当

	発 行 日		シ ー ト 作 成 者	テ ー マ
1	4月7日	土	川崎 智子	唐箕
2	5月5日	土	三河 綾乃	ヒメボタル
3	6月2日	土	田村 優子	高機
4	7月7日	土	藤嶋 マミ	東北地方地下断面模型
5	8月4日	土	那須 優香子	江釣子古墳群
6	9月15日	土	石川 依子	人面墨書土器
7	10月6日	土	草島 千香子	羽釜
8	11月3日	土	小田嶋 麻記子	ヨシ
9	12月1日	土	畠 香奈子	石うす
10	1月5日	土	伊藤 敦子	ヒライズミルカの部分骨格
11	2月2日	土	川崎 智子	釣針
12	3月2日	土	中村 紫保	戊辰戦争の軍装

※当館解説員が毎月作成している展示資料解説カードの配布

■リードオルガン演奏会 ※文化財科学・大津波プロジェクト事務局[赤沼英男・丸山浩治]担当 延べ 56 人

	期 日	イベント名	演 者 ・ 所 属	参加人数	備考
1	4月29日 土	奇跡のオルガン- よみがえるほほえ みの音色-	箱木禮子(日本リードオルガン協会東北支部長)	56	午前25名 午後31名

■まんが似顔絵 ※文化財科学 担当[赤沼英男、丸山浩治] 延べ 120 人

	期 日	イベント名	講 師 等	定員	備考
1	5月3日 木	まんが似顔絵	女子美術大学学生および卒業生	40	午前・午後の2回
2	5月4日 金	まんが似顔絵	女子美術大学学生および卒業生	40	午前・午後の2回
3	5月5日 土	まんが似顔絵	女子美術大学学生および卒業生	40	午前・午後の2回

■マメンキサウルスと記念撮影 ※学芸第三課 担当[望月貴史] 延べ 226 人

	期 日	イベント名	参加人数	備考
1	7月28日 土	マメンキサウルスと記念撮影	86	
2	8月4日 土	マメンキサウルスと記念撮影	53	
3	8月11日 土	マメンキサウルスと記念撮影	87	

(イ) 教育普及事業

■文化講演会 ※民俗部門[近藤良子]担当 延べ 49 人

	期 日	講 師	演 題	備考
1	11月3日 土・祝	前川さおり(遠野文化研究センター)	「馬と人の恋～遠野物語とオシラ神～」	

■日本再生医療学会「リスクコミュニケーションのモデル形成事業」市民講座[1回]

※生物部門[渡辺修二]担当 延べ50人

	期 日	講 師	テ ー マ	備考
1	12月2日 日	青井貴之氏(神戸大学大学院) 八代嘉美氏(神奈川県立保健福祉大学) 佐藤陽治(国立医療薬品食品衛生研究所)	再生医療を安全に届ける	日本再生医療学会 岩手県立博物館主催

■北上川水源地域セミナー[1回] (共催:北上川ダム統管理事務所)

※学芸第二課[木戸口俊子]担当 延べ 71 人

	期 日	講 師	演 題	備考
1	12月23日 日	山岸千人	洪水について考える～水害・ダム・地層～	県博日曜講座を兼ねる

※【平成 25 年度～】北上川ダム統管理事務所並びに北上川「流域圏」フォーラム実行委員会との共催によるセミナーで、平成 30 年度は「県博日曜講座」を兼ねて実施した。例年どおり当館は会場を提供し、当日の運営補助を担当。当館職員が部門持ち回りで講師を務めている。(第1回:地質部門、第2回:民俗部門 第3回:歴史部門 第4回:生物部門 第5回:考古部門 第6回:歴史部門)

■岩手県立博物館友の会話のサロン[3回]

※学芸第二課[木戸口]担当 延べ 76 人

	期 日	講 師	演 題	参加者数	備考
1	5月12日 日	大石雅之氏(元県立博物館学芸部長)	平泉文化の地質学的環境～イタリアの世界遺産を背景に～	14	
2	11月25日 日	藤井忠志	鳥獣と自然環境を語る	37	県博日曜講座を兼ねる
3	2月17日 日	飯坂真紀氏(画家・神楽研究家)	神楽の楽しみ方	25	

■県博日曜講座[全 23 回]

※学芸第三課[濱田宏]担当 延べ 1197 人

	期 日	講 師	テ ー マ	参加者数	備考
1	4月8日 日	赤沼英男	救出された資料が語る気仙地方のくらしー漁撈、製鉄、産金に視点を当ててー	29	地域展開連講座

	期 日		講 師	テ ー マ	参加者数	備 考
2	4月22日	日	萩尾望都(漫画家・女子美術大学客員教授) 内山博子(女子美術大学教授)	「ポーの一族の世界-漫画の魅力-」	174	地域展開連講座
3	5月13日	日	金子昭彦	考古学者は土偶の用途をどう推理するか	37	
4	5月27日	日	望月貴史	生命史をひも解くーベルム紀ー	34	
5	6月10日	日	渡辺修二	「わかればきっと好きになる・クモ」	63	企画展開連講座
6	6月24日	日	須黒達己(慶應義塾幼稚舎教諭)	「あなたもハエトリグモを探したくなる！」	67	企画展開連講座
7	7月8日	日	原田祐参	武家の装い〜甲冑・刀・刀装具〜	33	
8	7月22日	日	丸山浩治	小さな大敵「文化財害虫」	18	
9	8月12日	日	濱田宏	落とし穴の用途ー狩猟用以外に何が？ー	25	
10	8月26日	日	小山内透	発掘から見えてきた古代たたら製鉄	31	
11	9月23日	日	高橋裕史氏(森林総合研究所東北支所)、鈴木まほろ	早池峰山の植物をニホンジカから守れるか	108	
12	10月14日	日	近藤良子	動物をめぐる俗信と伝承	45	テーマ展開連講座
13	10月28日	日	野坂晃平氏(えさし郷土館学芸員)	動物神霊と信仰〜江刺地方を中心に〜	35	テーマ展開連講座
14	11月11日	日	武田麻紀子	東北からみた明治〜明治維新150年〜	44	
15	11月25日	日	藤井忠志	〜鳥獣と自然環境を語る〜	37	
16	12月9日	日	熊谷賢(陸前高田市生涯学習課) 赤沼英男	陸前高田市立博物館における被災文化財と再生の歩みー博物館復興を目指してー	21	
17	12月23日	日	山岸千人	洪水について考える〜水害・ダム・地層〜	71	北上川水源地域セミナーを兼ねる
18	1月13日	日	木戸口俊子	岩手の金工〜新収蔵の金銀細工〜	33	新収蔵展開連講座
19	1月27日	日	金子昭彦	ストーンサークルと切断蓋付土器の時代ー3,800年前の北日本の縄文文化ー	45	新収蔵展開連講座
20	2月10日	日	佐々木康裕	中世の南部氏関連史跡をあぐる	54	
21	2月24日	日	鎌田勉氏(岩手県教育委員会文化財課長)	いわて・古代から中世の瓦のはなし	35	新収蔵展開連講座
22	3月10日	日	米田寛	赤色顔料のはなしー土器の塗布顔料を中心にー	35	
23	3月24日	日	藺田貴弘	岩手の往来と藤田武兵衛	58	テーマ展開連講座

※当館学芸員もしくは外部講師による講演会。

■国際博物館の日記念事業 県博バックヤードツアー

※学芸第三課 [望月貴史]担当 延べ10人

	期 日		講 師	概 要	参加人数	備 考
1	5月21日	日	当館学芸員	文化財レスキューコース(午前・午後の2回)	3	事前申込制
2				自然コース	0	
3				歴史コース	7	

※【平成16年度〜】5月18日の国際博物館の日記念事業として実施。

■古文書入門講座[全6回]

※歴史部門[原田祐参・佐々木康裕]担当 延べ50人

	期 日		講 師	テ キ ス ト	参加者数	備 考
1	6月2日	土	佐々木康裕	平泉往来	9	
2	6月3日	日	佐々木康裕	平泉往来	8	
3	6月9日	土	佐々木康裕	平泉往来	8	
4	6月10日	日	原田祐参	子供早学問	8	
5	6月16日	土	原田祐参	子供早学問	9	
6	6月17日	日	原田祐参	子供早学問書館定	8	

■ミュージアムコンサート

※学芸第三課[望月貴史]担当 延べ152人

	期 日	概 要・所 属 等	入 場 者 数	備 考
1	12月24日 月・祝	クリスマスコンサート(盛岡第四高等学校音楽部34名)	152	講堂で開催

※今年度は冬期に1回のみ開催

■考古学セミナー

※考古部門[金子昭彦]担当 延べ37人

	期 日	講 師 等	演 題・イ ベ ント 名 ほか	参 加 者 数	備 考
1	9月15日 土	佐藤良和氏(奥州市埋蔵文化財調査センター)	岩手の古墳時代を探る	37	現地見学会は最少催行人数に満たず不開催

■自然観察会[全2回]

※生物部門[鈴木まほろ・渡辺修二]担当 延べ21人

	期 日	講 師 等	テ ー マ	参 加 者 数	備 考
1	7月1日 日	渡辺修二	第75回自然観察会:クモを見つけようin小鹿公園	21	
2	9月23日 土	鈴木まほろ	第76回自然観察会:早池峰河原坊の植物観察	中止	台風の接近による

■地質観察会[全2回]

※地質部門[山岸千人・望月貴史]担当 延べ56人

	期 日	講 師 等	テ ー マ	参 加 者 数	備 考
1	7月1日 日	山岸千人	第75回地質観察会:白亜紀の岩泉を訪ねて	37	
2	10月14日 日	望月貴史	第76回地質観察会:雫石町のと海と湖の地層を見る	19	

■博物館館園実習[全7日]

※学芸第三課[藺田貴弘]担当 延べ84人

	期 日	講 師	演 題	参 加 者 数	備 考
1	8月17日 金	高橋廣至	実習にあたって	12	
2		濱田宏	岩手県立博物館概要説明		
3		実習担当	施設見学		
4		小山内透	講義「地方博物館の使命と役割」		
5		花山智行	博物館管理業務の実務		
6	8月18日 土	実習担当	展示の実務(企画展を例に・生物)	12	
7		鈴木まほろ	博物館資料管理の実務		
8		文化財科学	環境保全・資料保存の実務		
9		解説員	展示解説の実務【解説会】		
10	8月19日 日	武田麻紀子	事業広報の実務(概説)	12	
11		望月貴史	教育普及・事業広報の実務		印刷物仕分け
12		近藤良子	教育普及の実務		体験教室等
13		望月貴史	教育普及・事業広報の実務		印刷物仕分け
14	8月21日 火	藤井忠志	展示の実務(概説)	12	
15		望月貴史 藺田貴弘	展示・管理業務の実務		ケース・演習具組み立て・メンテナンス
16		鈴木まほろ 渡辺修二 藤井忠志	展示・資料整理の実務(生物)		
17	8月22日 水	藺田貴弘 原田祐参 武田麻紀子	展示・資料整理の実務(歴史)	12	
18		木戸口俊子 近藤良子 米田寛	展示・資料整理の実務(民俗)		
19	8月23日 木	金子昭彦	展示・資料整理の実務(考古)	12	
20		山岸千人 望月貴史	展示・資料整理の実務(地質)		
21		金子昭彦	展示・管理の実務(考古)		
22	8月24日 金	武田麻紀子 藺田貴弘	展示・管理の実務(歴史)	12	
23		濱田宏	実習終了にあたって		
24		実習担当	実習ノートのまとめ		

※今年度は、岩手大学(3名)、千葉科学大学(1名)、立正大学(1名)、弘前大学(2名)、盛岡大学(4名)、八洲学園大学(1名)から実習生を受け入れた。

■文化財等取扱講習会[全3日] 学芸第二課[木戸口俊子]ほか担当 延べ163人

期 日		講 師	演 題	参加者数	備考
1	1月30日	水	赤沼 丸山	26	
2			文化財等資料管理(文化財科学)		
3			文化財等資料取扱基礎(歴史)		
4	1月31日	木	鈴木 渡辺 山岸 望月	27	
5			文化財等資料取扱基礎(自然史)		
6			文化財科学、学芸部		
7	2月1日	金	総務課・学芸部	27	
8			意見交換会	27	
9			原田 金子 近藤	27	
10	2月1日	金	武田	28	
11			文化財等取扱実技(調書作成)	28	
12	2月1日	金	日本通運株式会社	28	
13			文化財等取扱実技(資料梱包・写真撮影)		
14	2月1日	金	みどり光学社	28	
15			文化財等取扱実技(資料梱包・写真撮影)		

※文化財の取扱いに習熟した各部門の学芸員が企画。当事業は一昨年度から有料化した。

■教員のための博物館の日 ※学芸第三課[望月貴史]担当 延べ10人

期 日	講 師	内 容	参加人数	備考
1	当館学芸員	展示解説会・収蔵庫見学・植物分類・ストラップづくり等	10	

※学校との連携を進めるため、平成28年度から実施している。

■第10回岩手県立博物館まつり ※学芸第三課[望月貴史・米田寛]担当 2,079人

期 日	総 括	来場者数	備考
1	望月貴史・米田寛	2,079	岩手県文化振興事業団自主事業

※平成20年度から実施。当館及び事業団職員、ボランティア42名(友の会19名、愛護協会2名、学生14名、一般0名、教員研修7名)により、屋内外で以下のプログラムを実施した。

【屋内】ねこえまづくり(猫絵馬)[喫茶ひだまり]、かせきのレプリカづくり[教室]、スライムどけいづくり[実技室]、へんしん！～むかしのコスチューム～[体験学習室]、まつりげんてい！かんバッジづくり[グランドホール]、オリジナルストラップづくり・修復作業見学[修復館]

【屋外】たのしい！！むかしあそび[民家・佐々木家]、たんけん！がんせきえん・しょくぶつえん[岩石園・植物園]、民俗芸能公演[二子鬼剣舞 演目：きつね剣舞]、民謡公演(山上衛氏)、動物ふれあいコーナー[芝生広場]

なお、平成30年度は10回目の節目の年にあたり、来場者にオリジナルクリアファイルを贈呈した。

■ヒストリックカー&クラシックカーミーティング ※学芸第三課[原田祐参]担当 579人

期 日	総 括	見学者数	備考
1	原田祐参	579	岩手県文化振興事業団自主事業

■たいけん教室～みんなのためそう～[全49回] ※学芸第三課[解説員] 延べ2,122人

期 日	講 師	テ ー マ	参加者数	内 訳
1	解説員	オリジナル卵をつくろう	46	子ども24名
2	解説員	スライムで遊ぼう	51	子ども25名
3	解説員	手づくり万華鏡	47	子ども25名
4	解説員	化石のレプリカ	28	子ども15名
5	解説員	こいのぼりづくり	43	子ども24名
6	解説員	砂絵	36	子ども23名
7	解説員	まが玉のアクセサリ	45	子ども25名
8	解説員	ばねのキツツキおもちゃ	38	子ども19名
9	解説員	チャグチャグ馬コづくり	27	子ども13名
10	解説員	チャグチャグ馬コづくり	28	子ども15名
11	解説員	草花のそめもの	37	子ども21名
12	解説員	スライムであそぼう	49	子ども26名
13	解説員	石から絵の具をつくろう	48	子ども23名
14	解説員	カラフルクモづくり	46	子ども26名

	期 日		講 師	テ ー マ	参加者数	内 訳
15	7月8日	日	解説員	化石のレプリカ	43	子ども23名
16	7月15日	日	解説員	お絵かきはんこ	48	子ども25名
17	7月22日	日	解説員	ミニさんさだいこ	95	子ども50名
18	7月29日	日	解説員	天然石のフォトフレーム	81	子ども45名
19	8月5日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ	85	子ども48名
20	8月12日	日	解説員	こはくの玉づくり	49	子ども24名
21	8月19日	日	解説員	土器づくり	46	子ども23名
22	8月26日	日	解説員	まが玉のアクセサリー	30	子ども16名
23	9月16日	日	解説員	お月見かざり	19	子ども9名
24	9月23日	日	解説員	手づくり万華鏡	26	子ども12名
25	9月30日	日	解説員	アンモナイトの消しゴムづくり	48	子ども25名
26	10月14日	日	解説員	ウォータードームづくり	46	子ども23名
27	10月21日	日	解説員	葉っぱのカラフルカード	35	子ども19名
28	10月28日	日	解説員	スライムであそぼう	47	子ども24名
29	11月4日	日	解説員	化石のレプリカ	32	子ども17名
30	11月11日	日	解説員	手づくり万華鏡	42	子ども25名
31	11月18日	日	解説員	こはくの玉づくり	33	子ども17名
32	11月25日	日	解説員	松ぼっくりのX'mas ツリー	52	子ども27名
33	12月2日	日	解説員	松ぼっくりのX'mas ツリー	44	子ども24名
34	12月9日	日	解説員	まゆで干支づくり(亥)	44	子ども25名
35	12月16日	日	解説員	松ぼっくりの正月かざり	45	子ども29名
36	12月23日	日	解説員	まゆで干支づくり(亥)	45	子ども25名
37	1月6日	日	解説員	みずきだんご	40	子ども20名
38	1月13日	日	解説員	たこづくり	45	子ども25名
39	1月20日	日	解説員	木のこまの絵つけ	32	子ども15名
40	1月27日	日	解説員	こはくの玉づくり	35	子ども16名
41	2月3日	日	解説員	スライムであそぼう	38	子ども19名
42	2月10日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう	47	子ども24名
43	2月17日	日	解説員	おひなさまづくり	33	子ども18名
44	2月24日	日	解説員	おひなさまづくり	19	子ども8名
45	3月3日	日	解説員	お絵かきはんこ	28	子ども16名
46	3月10日	日	解説員	土偶づくり	49	子ども25名
47	3月17日	日	解説員	3Dメガネで万華鏡	58	子ども28名
48	3月24日	日	解説員	天然石のフォトフレーム	46	子ども25名
49	3月31日	日	解説員	化石のレプリカ	46	子ども26名

※【昭和56年度～】当館解説員による主に小学生対象のワークショップである。定員はプログラムごとに20～30名の範囲内で設定している。一昨年度から材料費を参加者負担とした。

### ■冬のワクワク！ワークショップ

※学芸第三課[米田寛・解説員]担当 延べ367人

	期 日		講 師	プログラム	参加者数	備考
1	1月12日	土	望月貴史・米田寛・解説員	化石のレプリカづくり、おかしのせつけんづくり	367	

※【平成24年度～】幼児～小学生向けワークショップで、今年度は上記の二つのプログラムを用意した。

### ■冬の写生会

※総務課[小野寺聡美]担当 36作品

	期 日		概 要	参加者数	備考
1	12月16日～1月14日		展示資料や岩手山を描く	—	
2	1月20日～2月12日		作品の展示	—	展示数36作品

※【平成18年度～】館内からの景色やマメンキサルズ等の展示資料を描いた作品を募集し館内に掲示。

### ■ミュージアムシアター[全11回]

※学芸第三課[藺田貴弘]担当 延べ265人

	期 日		運 営	内 容	鑑賞者数	備考
1	4月14日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:佐々木、濱田	①三太郎とかぐや姫の交通安全 ②はらべこあおむし(5話収録) ③タマにしらーんぷり ④むしむし村の仲間たち-みんないいところなんだよ-	41	

	期 日		運 営	内 容	鑑賞者数	備考
2	5月5日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:藺田	①セロひきのゴーシュ②注文の多い料理店③風のように	28	
3	6月2日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:近藤、米田	①クモの糸②自然なぜなに?DVD 図鑑第1集 アリ・ホタル・クワガタムシ③風のように	28	幼児 4、小学生 10、大人 10、高齢者 4
4	7月7日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:金子	虹色ほたる～永遠の夏休み～	60	幼児 12、小学生 17、大人 26、高齢者 5
5	8月4日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:藤井、藺田	①オズのまほうつかい②みにくいあひるのこ③ふしぎの国のアリス④ダンボ	47	幼児 7、小学生 18、大人 13、高齢者 9
6	10月6日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー 運営:藺田	くちづけ	12	大人 8、高齢者 4
7	11月3日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:金子、濱田	①ここから歩き始める②盲目の名馬 タカラコスモス	4	高齢者 4
8	12月1日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:望月	フランダースの犬	9	小学生 5、大人 2、高齢者 2
9	1月5日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:米田	①雪の女王②ゆかいなピエロとにげだした六匹の熊	19	幼児 2、小学生 5、中学生 1、大人 11
10	2月2日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:近藤	①県政ニュース S35、36②さんりく路の皇太子ご夫妻～S45 国体時来県～③昭和天皇の時代	13	大人 13
11	3月2日	土	映写:中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティアシネマ友の会 運営:望月	①ひなまつり②タイムスリップ 1923 守のミラクル地震体験③稲むらの火④金色の足あと	4	幼児 1、子ども 1、大人 2

※【平成14年度～】盛岡教育事務所中央地域視聴覚ライブラリーとの共催による映画会。映写は16ミリ映写機操作技術講習会修了証を有するライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」が担当した。

## ■ 県博出前講座

※学芸第三課[金子昭彦]担当 延べ996人

	期 日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	5月30日	火	佐々木康裕 原田祐参	盛岡市立上田小学校	総合的な学習の時間(前九年の役と後三年の役を中心に)	72名	6年生70 教員2
2	6月19日	火	望月貴史	岩手大学教育学部附属幼稚園	かせきのおはなし	46名	
3	6月28日	木	近藤良子	岩手県立平舘高等学校	雫石地方の野良着	10名	
4	6月28日	金	佐々木康裕	岩手県立釜石高等学校	SS探究日本史グループ指導・助言	10名	
5	7月5日	日	佐々木康裕 原田祐参	岩手県立釜石高等学校	SS探究日本史グループ指導・助言	10名	
6	7月20日	金	原田祐参 佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	博物館資料から歴史を考察する	20名	
7	7月23日	月	原田祐参	岩手県立千厩高等学校	総合的な学習の時間(「千厩地域の歴史」)	120名	3年生110 教員10
8	7月24日	火	原田祐参 佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	博物館資料から歴史を考察する	52名	
9	7月27日	金	渡辺修二	コミュニティ広場すまいる	自然観察	14名	幼児・小学生6、 一般・保護者8
10	8月1日	水	渡辺修二 鈴木まほろ	奥州市立水沢南中学校	自然観察	10名	
11	8月27日	月	渡辺修二	盛岡市立太田小学校	自然観察	10名	
12	9月22日	土	丸山浩治	岩手町立一方井小学校PTA	火山灰と遺跡、遺跡はけっこう身近にある	30名	小学生15保護 者14教員1
13	12月11日	火	藤井忠志	盛岡市立仁王小学校	総合的学習「将来の職業(学芸員の仕事)」	2名	6学年1 教員1名
14	12月21日	金	原田祐参 佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	日本史の中の武器	22名	
15	12月22日	土	原田祐参 佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	日本史の中の武器	25名	



	期 日		派遣職員	依 頼 者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
16	12月23日	日	原田祐参 佐々木康裕	岩手県立盛岡第三高等学校	日本史の中の武器	25名	
17	12月27日	木	佐々木康裕 原田祐参	岩手県立盛岡第三高等学校	元号から日本史を考える	72名	
18	1月30日	水	武田麻紀子	岩手県立福岡高等学校	特別授業 (元号から明治を考える)	48名	3学年41 教員7
19	2月6日	水	近藤良子 米田寛	盛岡市立仙北小学校	昔のくらし	123名	3年生118 教員5
20	2月7日	木	近藤良子 米田寛	盛岡市立大新小学校	昔のくらし	99名	3年生96 教員3
21	2月12日	火	木戸口俊子 近藤良子 米田寛	盛岡市立上田小学校	昔のくらし	72名	3年生70 教員2
22	2月26日	火	近藤良子 米田寛	一戸町立一戸小学校	昔のくらし	34名	3年生31 教員3
23	3月1日	金	近藤良子 米田寛	盛岡市立高松小学校	昔のくらし	70名	3年生67 教員3

※当館が講師派遣に係る実費を負担したもの

## (ウ) 講演会・講座に係る職員派遣

### ■講演会・講座に係る職員派遣

※学芸第三課[金子昭彦]担当 延べ612人

	期 日		派遣職員	依 頼 者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	5月13日	日	鈴木まほろ	金ケ崎千貫石地区生物多様性 支援隊	自然観察会	40	金ケ崎町千貫石
2	5月26日	日	佐々木康裕	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「旅する南部塾」①	28	青森県南部町
3	6月16日	土	米田寛	蝦夷研究会	岩手県における古墳時代～平安時 代の赤彩土器研究 -東北地方北 部の赤彩土器を探る-	14	岩手大学学生セン ター
4	6月17日	日	佐々木康裕	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「旅する南部塾」②	28	青森県三戸町
5	6月28日	木	鈴木まほろ	塩野義製菓(株)金ケ崎工場	「岩手の絶滅危惧植物について」	50	金ケ崎町
6	7月3日	火	鈴木まほろ	岩手大学	岩手大学博物館実習	15	盛岡市
7	7月7日	土	佐々木康裕	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「旅する南部塾」③	40	青森県弘前市
8	7月10日	火	鈴木まほろ	岩手大学	岩手大学博物館実習	15	盛岡市
9	7月11日	水	渡辺修二	盛岡市立仙北中学校	職業講話	30	盛岡市
10	7月19日	木	近藤良子	紫波郷土史同好会	馬をめぐる民俗	32	紫波町赤石公民 館
11	7月24日	火	望月貴史	三陸ジオパーク推進協議会	アンモナイトのレプリカ作り講習会	15	宮古地区合同庁 舎
12	8月8日	水	望月貴史	三陸ジオパーク推進協議会	みんなでワークショップ 三陸ジオパ ークの魅力伝えるためには	20	久慈市民体育館
13	8月18日	土	佐々木康裕	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「旅する南部塾」④	36	一戸町・九戸村・二 戸市
14	8月20日	月	赤沼英男 丸山浩治 鈴木まほろ	大津波プロジェクト	大津波被災文化財シンポジウム	29	陸前高田市立博 物館
15	9月9日	日	鈴木まほろ	インフォコム株式会社	久慈市観光ガイド養成講座	10	市民の森・久慈市 役所
16	9月20日	木	小山内透	日本鉄鋼協会 鉄鋼プレゼン ス研究調査委員会 鉄の技術 と歴史研究フォーラム	日本鉄鋼協会 第176回秋季講演 大会 「鉄の技術と歴史」研究フォーラム講 演会	85	東北大学 川内キャンパス
17	9月26日	水	金子昭彦	西松園ひまわりクラブ	世界遺産を目指す「北海道・北東北 の縄文遺跡群」	31	当館
18	9月30日	日	佐々木康裕	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「旅する南部塾」⑤	29	青森県八戸市
19	10月8日	月・祝	鈴木まほろ	住田町教育委員会	森の達人講座「草花編」	30	遊林ランド種山

	期 日		派遣職員	依 頼 者	演題・イベント名ほか	参加者数	備 考
20	10月13日	土	武田麻紀子	北上川ダム統合管理事務所 (四十四田ダム50周年記念事 業委員会)	四十四田ダム50周年記念式典 演 題「松尾鉱山と北上川」	300	ホテル東日本盛岡
21	10月19日	金	佐々木康裕	岩手県高等学校PTA連合会 PTA会長研修会	中世南部氏の歴史	60	花巻温泉ホテル 千秋閣
22	11月4日	日	赤沼英男 鈴木まほろ	大津波プロジェクト	大津波被災文化財シンポジウム	10	女子美術大学 杉並校舎
23	11月10日	土	佐々木康裕	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「旅する南部塾」⑥1 日目	12	山梨県南部町
24	11月11日	日	佐々木康裕	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「旅する南部塾」⑥2 日目	12	山梨県身延町
25	11月18日	日	近藤良子	銀河鉄道観光	銀河鉄道観光「祈りにみる動物た ち」コラボ	36	遠野市・花巻市
26	12月1日	土	鈴木まほろ	岩手県勤労者山岳連盟自然 保護部会	岩手県のシカ問題と登山者のあり方	28	ベルフ仙北
27	12月22日	土	望月貴史	岩手県・三陸ジオパーク推進協 議会	三陸ジオパークの魅力を訪日旅行 客に伝える	31	久慈市文化会館 アンバーホール
28	12月22日	土	鈴木まほろ	第5回東北野生動物管理研 究交流会 in もりおか	早池峰山のシカ食痕調査と柵の設 置	200	アイーナ
29	2月2日	土	望月貴史	岩手県・三陸ジオパーク推進協 議会	三陸ジオパークの魅力を訪日旅行 客に伝える 第3回地域連携・交流 セミナー	21	気仙沼市・陸前高 田市・大船渡市
30	2月9日	土	赤沼英男 鈴木まほろ	大津波プロジェクト	大津波被災文化財シンポジウム	80	陸前高田市 市民 ホール
31	2月21日	木	近藤良子	岩手県立大学社会福祉学部宮 城ゼミ	動物をめぐる俗信と伝承	11	岩手県立大学
32	2月28日	木	望月貴史	岩手県・三陸ジオパーク推進協 議会	三陸ジオパーク北部ブロック「ジオ サイト見分ガイド研修会」	21	久慈市・野田村・普 代村
33	3月1日	金	鈴木まほろ	歴史文化資料 NW 事業東北 大拠点事業委員会	歴史文化資料保全コーディネータ ー講座「様々な資料の保全 7 生物 系資料」	50	東北大学理学部 (仙台市)
34	3月16～ 17日	土・日	赤沼英男 鈴木まほろ	大津波プロジェクト	大津波被災文化財シンポジウム	50	福岡県芦屋町 歴史の里

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担、もしくは共同プロジェクトとして実施したもの。

## イ. 学校教育との連携

### (ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記の通りである。合計で93校(昨年100校)、3,909人(昨年3,667人)が来館した。学習利用での来館者数は前年度からやや増加した。尚、来館した施設数は前年度を若干下回っている。この背景には、少子高齢化の進展による学校の統廃合が進んでいることなどがあるものと推測される。

#### 保育園等

	日 時	都道府県	区分	学 校 名	内 容	引率	生徒	合計
1	5月12日	岩手県	保	岩手医大なかよし保育園	遠足	5	41	46
2	5月18日	岩手県	保	本宮保育園	遠足	14	98	112
3	6月1日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	2	29	31
4	6月5日	岩手県	保	愛育園	園外学習	5	48	53
5	8月21日	岩手県	保	MHナーサリー	園外学習	4	21	25
6	9月14日	岩手県	保	愛育園	園外学習	8	6	14
7	10月2日	岩手県	保	愛育園	園外学習	6	44	50
8	11月9日	岩手県	保	ハレルヤ保育園	見学	3	26	29
9	3月13日	岩手県	保	津志田保育園	遠足	3	25	28
9 校					合計	50	338	388

## 幼稚園

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	4月5日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	3	18	21
2	5月17日	岩手県	幼	盛岡市立太田幼稚園・つなぎ幼稚園	遠足	7	38	45
3	7月19日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	10	21	31
4	10月16日	岩手県	幼	みどりが丘幼稚園	園外学習	2	14	16
5	11月9日	岩手県	幼	盛岡大学付属厨川幼稚園	教育活動	2	27	29
6	12月20日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	6	23	29
7	1月9日	岩手県	幼	のぞみこども園	園外学習	8	69	77
8	2月19日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	園外学習	2	23	25
9	2月27日	岩手県	幼	青葉幼稚園	遠足	6	81	87
9校					小計	46	314	360

## 小学校

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	4月26日	岩手県	小	盛岡市立好摩小学校	社会科	2	32	34
2	5月8日	岩手県	小	岩手町立沼宮内小学校	社会科	3	54	57
3	5月24日	宮城県	小	宮城県名取市立那智が丘小学校	修学旅行	3	29	32
4	5月31日	宮城県	小	宮城県名取市立愛島小学校	修学旅行	10	160	170
5	6月8日	岩手県	小	宮古市立田老第一小学校・第三小学校	修学旅行	7	24	31
6	6月14日	宮城県	小	泉ヶ丘小学校	修学旅行	4	29	33
7	6月15日	岩手県	小	一関市立涌津小学校	修学旅行	4	15	19
8	6月15日	岩手県	小	山田町立山田南小学校	修学旅行	4	19	23
9	6月15日	岩手県	小	盛岡市立北厨川小学校	社会科	3	40	43
10	8月29日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	社会科	2	42	44
11	9月13日	宮城県	小	大崎市立敷玉小学校	修学旅行	5	18	23
12	9月13日	岩手県	小	盛岡市立桜城小学校	総合的な学習	3	32	35
13	9月13日	宮城県	小	気仙沼市立階上小学校	学習旅行	4	34	38
14	9月14日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	生活科	4	53	57
15	9月19日	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	遠足	10	101	111
16	9月26日	岩手県	小	滝沢市立滝沢小学校	遠足	11	170	181
17	9月26日	岩手県	小	盛岡市立津志田小学校	社会科	7	142	149
18	10月2日	岩手県	小	八幡平市立平館小学校	社会科見学	2	21	23
19	10月2日	岩手県	小	盛岡市立月が丘小学校	社会科見学	3	49	52
20	10月26日	岩手県	小	盛岡市立山岸小学校	社会科見学	5	101	106
21	11月2日	岩手県	小	九戸村立戸田小学校山根小学校	見学	5	15	20
22	11月8日	岩手県	小	滝沢市立一本木小学校	見学	2	23	25
23	11月9日	岩手県	小	盛岡市立玉山小学校	理科	1	13	14
24	11月14日	岩手県	小	滝沢市立鶴飼小学校	社会科	7	154	161
25	11月21日	岩手県	小	紫波町立佐比内小学校	社会科見学	1	6	7
26	11月21日	岩手県	小	盛岡市立渋民小学校	社会科	2	50	52
27	12月4日	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	社会科	4	43	47
28	12月19日	岩手県	小	九戸村立伊保内小学校	遠足	3	20	23
29	1月25日	岩手県	小	岩手町立沼宮内小学校	校外学習	2	42	44
30	2月5日	岩手県	小	八幡平市立平笠小学校	校外学習	2	7	9
31	2月8日	岩手県	小	滝沢市立滝沢東小学校	社会科	3	56	59
32	2月8日	岩手県	小	陸前高田市立矢作小学校	被災文化財再生体験	7	28	35
33	2月15日	岩手県	小	盛岡市立青山小学校	社会科	3	100	103
34	2月15日	岩手県	小	盛岡市立生田小学校	見学	2	7	9
35	2月20日	岩手県	小	盛岡市東松園小学校	校外学習	2	33	35
36	2月21日	岩手県	小	盛岡市立厨川小学校	社会科見学	3	69	72
36校					小計	145	1831	1976

## 中学校

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	5月8日	秋田県	中	横手市立平鹿中学校	校外学習	7	101	108
2	5月16日	青森県	中	八戸市立北稜中学校	校外学習	7	82	89
3	8月5日	鹿児島県	中	鹿児島市小松原ラ・サール中学校	校外学習	1	1	2
4	8月1日	岩手県	中	奥州市立水沢南中学校	研修	2	8	10
5	8月8日	岩手県	中	奥州市立前沢中学校	校外学習	1	26	27
6	8月19日	神奈川県	中	聖光学院	校外学習	2	22	24
7	9月20日	岩手県	中	田野畑村立田野畑中学校	研修	2	26	28
8	9月28日	岩手県	中	北上市立江釣子中学校	校外学習	4	96	100
9	10月18日	東京都	中	桐朋中学校	研修	3	34	37
9校					小計	29	396	425

## 高等学校

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	6月15日	岩手県	高	北日本高等専修学校	校外学習	4	21	25
2	6月24日	岩手県	高	岩手県立杜陵高等学校	遠足	17	100	117
3	7月5日	岩手県	高	岩手県立盛岡商業高等学校	部活動	2	8	10
4	7月8日	岩手県	高	岩手県立大船渡高校	見学	2	26	28
5	8月4日	岩手県	高	岩手県立福岡高校	校外学習 (部活動)	1	5	6
6	10月27日	青森県	高	青森県立青森北高校	研修	3	40	43
7	10月31日	岩手県	高	岩手県立宮古北高校	芸術鑑賞会	10	63	73
8	11月6日	岩手県	高	岩手県立久慈東高校	校外学習	1	15	16
9	11月27日	岩手県	高	岩手県立雫石高校	総合的な学習	3	30	33
10	11月29日	岩手県	高	岩手県立雫石高校	総合的な学習	6	36	42
11	12月11日	岩手県	高	岩手県立遠野緑峰高校	校外学習	2	9	11
12	12月26日	岩手県	高	岩手県立盛岡第二高校	校外学習	2	17	19
13	1月20日	岩手県	高	岩手県立住田高等学校	校外学習	2	6	8
14	2月16日	岩手県	高	岩手県立宮古商業高校	校外学習	2	18	20
15	2月17日	岩手県	高	岩手県立宮古商業高校	校外学習	3	21	24
16	2月26日	岩手県	高	岩手県立山田高等学校	校外学習	3	52	55
17	3月2日	岩手県	高	岩手県立花巻北高等学校	校外学習	2	28	30
17校					小計	65	495	560

## 大学・専門学校・専修学校等

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	4月14日	岩手県	大	岩手大学人文社会科学部地域政策過程	研修	7	85	92
2	6月27日	岩手県	大	岩手大学	研修	1	8	9
3	10月6日	岩手県	大	盛岡公務員法律専門学校	インターンシップ	0	8	8
3校					小計	8	101	109

## 支援学校等

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	4月24日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	2	4	6
2	5月15日	岩手県	特	岩手県立盛岡となん支援学校	校外学習	13	10	23
3	5月16日	岩手県	特	岩手県立盛岡となん支援学校	校外学習	10	11	21
4	6月5日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	1	1	2
5	7月13日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	2	3	5

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
5	7月13日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	2	3	5
6	10月5日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	3	1	4
7	10月11日	岩手県	特	岩手県立盛岡視覚支援学校	理科	4	8	12
8	11月6日	岩手県	特	岩手県立盛岡となん支援学校	社会科	2	2	4
9	11月9日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	3	1	4
10	12月6日	岩手県	特	岩手県立盛岡視覚支援学校	社会科	3	7	10
10校 合計 93校					小計 合計(人)	43 386	48 3523	91 3909

### 平成30年度 県別学習利用状況

区分	県内	秋田	宮城	青森	他	合計(校)
保	9					9
幼	9					9
小	31		5			36
中	4	1		1	3	9
高	16			1		17
大	3					3
特	10					10
合計	82	1	5	2	3	93

※下見を含まない

### (イ) 教材貸出

昨年度は13件48点の貸出を行ったが、今年度は5件24点の貸出を行った。内訳は下のとおりである。教育機関の中では小学校への貸出が2件、教育センター1件(計3件)、他は八幡平市博物館、県芸術文化協会であった。小学校「社会科」の「昔の道具とくらし」で活用が可能な炭火アイロンや電話機、洗濯板、こねばち、ランプ、そろばん、つまごなどの民俗資料の他、草履、鹿鳴館ドレス、女学生衣装やヨーヨー、おはじき、メンコなどの貸出があったが、この傾向は今年度も同様であった。

### ■平成30年度の教材貸出一覧

	貸出日	貸出先	点数	資料
1	5月24日	八幡平市博物館	3	鹿鳴館ドレス 近代女学生装束 あねこ装束
2	10月6日	(一社)岩手県芸術文化協会	5	ヨーヨー(2) 板返し(2) おはじき(2) メンコ(2) あやとり(2)
3	1月24日	盛岡白百合学園小学校	5	こねばち 炭火アイロン ランプ そろばん つまご
4	1月29日	盛岡市立北松園小学校	6	炭火アイロン 電話機(ダイヤル式) 洗濯板と金盥 石臼、むかしのおもちゃ(屋外用) 草履(5)
5	2月5日	岩手県立総合教育センター 情報・産業教育	5	鹿鳴館夜会服(紺) 女学生装束 リボン 下駄 あねっこ装束

### (ウ) 博物館園実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、また県出身者を対象としている。地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博

博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割について講義等を行っている。実習期間と受け入れ人数等は次のとおり。

平成30年8月17日(金)～8月24日(金)(8月20日(月)休館日除く7日間)  
盛岡大学4名、岩手大学3名、弘前大学2名、立正大学1名、千葉科学大学1名、  
八洲学園大学1名 計12名

## ウ. 職場体験・インターンシップ

今年度は5件23名の職場体験・インターンシップの申し込みがあった(29年度は6件11名)。このうち4件は中学生、1件は専門学校生の受け入れであった。

### ■平成30年度実施職場体験・インターンシップ参加校一覧

	実施日時	所属校	人数	体験内容
1	7月3日	盛岡市立北陵中学校	7	資料整理
2	7月3～4日	盛岡市立北松園中学校	2	資料整理
3	7月5日	宮古市立津軽石中学校	5	資料整理
4	9月20日	盛岡市立仙北中学校	1	資料整理
5	10月6～8日	盛岡公務員法律専門学校	8	資料整理、博物館まつり対応、集客増加策の検討

## エ. 問い合わせ受付

日常的に学芸員が対応する問合せについて、集計を行っている。計画されている事業に関わるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究に関わるものも含んでいる。

### ■平成30年度問合せ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	27	来館	14	恐竜について詳しい説明がほしい、子どもが集めた岩石や鉱物を鑑定してほしいなど。
		電話	12	分野を問わず、場所や名前、事象などについての情報収集に関するものが多い。地質観察会について、学校での授業に関わる問い合わせ、資料の紹介依頼などもあった。
		FAX、メール、手紙、その他	1	塩釜石について
生物	165	来館	44	写真の鳥の同定、環境調査に関するヒアリング、骨の鑑定、標本閲覧、絶滅危惧種の生育情報、クモの自由研究について、昆虫標本の作り方
		電話	52	アカゲラは木の実を食べるか、イノシシの記録について、北上川の環境について、水生生物調査について、チョウトンボの生息地、桜の狂い咲き、トチノキの街路樹について
		FAX、メール、手紙、その他	69	写真の鳥の同定、ニホンオオカミについて、写真の植物の同定、博物館活動の記録に関するアンケート、七草について
考古	41	来館	11	土器・石器・土偶等の鑑定、縄文関連の展覧会開催への助言。
		電話	26	遮光器土偶に関すること、製鉄に関すること、蕨手刀に関すること、遺跡出土資料に関すること、縄文人骨に関すること、縄文時代の展示に関すること、古墳に関すること
		FAX、メール、手紙、その他	4	遮光器土偶に関すること、糞虫山人について

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
歴史	120	来館	24	当館展覧会に合わせたツアーの企画に関する相談、新渡戸仙岳についての研究、南部氏について、甲冑について、岩手大学元教授の栗原良氏の遺品について、先祖である本堂通健(盛岡藩医)の品について、藩札について、南部藩 捕縛図の巻物について、陸奥盛府三十三観音御詠歌冊子表書きの文字について、何故会津藩が朝敵とされたのかについて、人油膏とは何かについて、盛岡藩における年貢の金目納について、盛岡におけるコレラ流行について、石碑の漢文の翻訳依頼、船筆筒に書かれた文字の解読依頼、岩手大学とインドネシアの大学が共同でつくる教科書に載せる写真について、中国古印についてなど。
		電話	60	中国古印について(多数)、鯨尾兜について、「桑島流」について、紫波の中野氏について、大正天皇後崩御の際の写真と、札幌市で発行された昭和天皇の写真集について、江戸・明治期の硬貨について、盛岡藩の火縄銃(所蔵品)について、安藤昌益について、大村治五平について、規伯玄方の史跡について、船模模型と小繰舟模型の映像使用許可申請について、紙本着色鍛冶神図の画像提供について、川口月嶺について、盛岡市展景について、南昌荘について、古文書(手紙)2点の解読依頼、小向周右衛門・漆戸官右衛門について、後三年合戦絵巻について、自宅から出てきた明治23年教育勅語の額を寄贈できるかについて、来館と参勤行列図巻のデジタル画像使用について、藤田家資料について、刀の寄贈について、寄贈したいという資料(明治三陸津波・大槌代官所・白石転封関連)について、秀吉、家康、会津上杉氏と盛岡藩の関係、刀剣の同定について(多数)、BS-TBS「諸説あり」番組内「太田孝太郎コレクション中国古印」画像使用許可について、南部実氏と常陸国の関係について(南部氏の飛び地か)、国分謙吉及び高村光太郎に関する当館収蔵品について、早池峰神社について、南部氏について、土畑鉱山について、
		FAX、メール、手紙、その他	36	樽山佐渡について、H7 企画展『銃後のくらしー戦前・戦中の岩手ー』の紙芝居について、資料閲覧依頼①盛岡城下鳥瞰図②陸奥日記③奥羽寒図記④東遊雑記、南部藩参勤交代絵巻(盛岡藩参勤交代図巻)の撮影許可申請について、ザ・AZABU44号掲載の表紙内容の校正について、鯨尾兜の画像確認、藩境の警備について、陸奥駒や南部駒の現在の評価と鞍迫観音について、蓑虫山人関連作品の所蔵先について、名古屋市の長母寺について、秀衡腕の画像提供について、三戸左京の屋敷地図について、中尊寺紺紙金銀字交書一切経の所在について、第59回企画展「北の黒船」図録掲載の「木砲」「大畑陣屋絵図」について、原敬と原鉄五郎との関係について、鯨尾兜のデジタル画像使用許可申請について、「岩樹御旧地探索秘記」の内容(人物名・役職等)について、晴山忠太について、「割菱に若松文三ツ腕(秀衡腕)」のサイズについて、
民俗	87	来館	27	山岳信仰について、妙見信仰・蘇民祭について、逆さヒバについて、千葉氏本宗家、相馬氏、奥州千葉氏の妙見信仰について、アケビ蔓背負い籠と背負縄の取り付け方法、神社内に納められている馬像の塗りなおしについて、民部田姓の出自について、盛岡市の山車について、沼宮内の修験について、狼駆除の毒薬について、川口月嶺と平福百穂について、岩手県の狼祭りについて、能楽関係の鼓・花巻人形について、葬送で使用するもち料理についてと縄文時代土製品との類似点について、伊達藩と南部藩という歴史的に見た岩手の食文化の違い等、特別展示室・淡路人形について、墓碑にみる隠れキリシタンの痕跡について、駒木鹿子踊の演目について、展示資料(マスク)の材料について、製炭道具解説・炭切鋸の構造について
		電話	44	遠野市の方言について、盛岡市の江戸時代の山車について、大正7年刊行亀山矩好著『工匠必携技術之魁』の内容確認と寄贈について、位牌の文字の解読について、青磁火入について、御伽草子記載の酒呑童子について、牛頭天王の信仰についての岩手の背景、砂金採りの用具に関する文献について、田植踊りの装束について、紫波人形について・草相撲(紫波の力士)について、倉沢人形歌舞伎について、小田島祿郎が関わった天台寺複製鱈口について、わさびだんご、かまだんごについて、雛人形の鑑定依頼、岩手県人の気質・風土・歴史について、さんさの由来に係る文献について(小学3年生の副教材として適切な映像・文献等)、葛巻町で狼が生息した場所・漆・能楽について、南部絵巻の現状に関する意見・サイトギの情報、隠し念仏系資料について、不動明王掛図と隠れキリシタンについて、現在における掛鯛の有無・絵図の有無、野老の習俗について、東日本大震災後8年を経た岩手の民俗芸能の現状について、文化庁緊急調査県内の民謡調査個票について、テーマ展「祈りにみる動物たち」における動物関係の信仰について、岩手県のオシラサマについて、新収蔵資料展展示予定の木地山系こけしについて、北上山地北部の郷土食の広まりについて、自光坊関係資料について、享保雛の烏帽子について、等
		FAX、メール、手紙、その他	16	中近世期の仏画(民画)の収蔵状況確認、蓑虫山人絵日記と北上川舟運関係文書について、煎餅の型について、昭和30年代母子健康センターについて、南部牛追い歌の中の歌詞について(筆角)、宇南権現とはどのような神様なのか、棟札のクリーニングと実測方法について、岩手県内の顔部位別(目・鼻・耳等)の餅製作について、猫淵神社の絵馬、大船渡市の猫石碑について、囲炉裏にまつわる習俗及び佐々木家の構造について、道祖神・馬頭観世音・庚申塔など

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
文化財科学	7	来館	3	資料保存についての情報収集、卒論作成に係る情報収集(大学生) 大学推薦入試に係る情報収集(高校3年生)
		電話	2	写真使用許可申請について 燻蒸設備のメンテナンスについて
		FAX、メール、手紙、その他	2	美術品の撮影について
合計	447			

### (3) 調査研究活動

調査研究活動は、博物館の展示活動、教育普及活動等を展開するうえでの基幹活動に位置づけられる。学芸員が取り組む研究テーマは、小テーマ、小テーマを包括する大テーマに区分され、それぞれのテーマに従い研究が行われた。一部の研究テーマについては研究協力員、他機関に所属する研究者と共同で進められた。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、全学芸員から平成30年度の研究進捗状況、研究成果が報告された。また、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第36号のほか、学会、学術雑誌、各種報告書等で公表された。考古学部門では岩手県教育委員会からの委託による前平泉文化関連遺跡調査事業(前平泉文化の研究)を進め、3ヶ年の成果を『岩手県立博物館調査研究報告書』第34冊として刊行し、文化財科学部門では外部機関から申請された研究を受託し、生物学部門では自然史標本データ整備事業を実施した。

#### ア. 調査研究活動の概要

地質部門3テーマ、生物部門6テーマ、考古部門5テーマ、歴史部門4テーマ、民俗部門5テーマ、文化財科学部門8テーマで調査研究活動が推進された。

表5(3)-1 平成30年度 調査研究テーマとその実施状況

部門	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
地質	地域地質に関する研究A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月 貴史 山岸 千人	岩泉付近の地質調査を行い、地質観察会実施へと結びつけることができた。また、昨年度からの継続で陸前高田市教育委員会からの依頼により、大石雅之氏(当館研究協力員)・永広昌之氏(東北大学総合学術博物館)らとともに陸前高田市の南部北上帯(上八瀬層)の層序・古生物学的研究を行った。該当地域の詳細な柱状図や地質図の作成に取り組んでいる。来年度以降も継続して調査を行う予定である。
	地域地質に関する研究B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	山岸 千人 望月 貴史	北上平野西縁・雫石付近に分布する海成層～陸成層の層序学的調査を行い、地質観察会実施へと結びつけることができた。八幡平周辺、須川岳周辺において予備的調査を行った。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月 貴史	研究協力員の大石雅之氏らの協力の下、陸前高田市矢作町飯森に分布するペルム系上八瀬層の詳細な柱状図を作成し、腕足動物化石のサンプリングを進めた。また、野田村米田海岸に露出する白亜系国丹層の詳細な柱状図を作成し、産出する生痕化石について調査を実施した。
生物	地域生態系の研究	北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究	藤井 忠志 鈴木 まほろ 渡辺 修二	青森県白神山・秋田県森吉山・岩手県八幡平におけるブナ林内の鳥類調査を実施した(藤井)。早池峰山麓のブナ林において、ニホンジカの痕跡と植生衰退度の調査を実施し、植生学会に報告した(鈴木)。経塚山で昆虫・クモ相の調査を行い、県内46年ぶりとなるウデグロカオカハエトリを採集した(渡辺)。



部門	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
生物	日本産鳥類の生態学的研究	北東北三県における本州産クマガラ個体群の生息状況およびその生態に関する研究	藤井 忠志	日本において南限地に位置する北東北三県のクマガラ( <i>Dryocopus martius</i> )個体群の生息分布調査をNPO 法人本州産クマガラ研究会の補助のもと継続実施した。しかし、森吉では新たな痕跡が皆無で、白神山地ではねぐら穴改築の痕跡と声のみの確認に留まった。また、白神山地の旧繁殖地においては、林野行政による無断伐採が露見し、直接、助言指導した。 セブンイレブン記念財団助成により、図録「クマガラ」を編集・刊行した。日本鳥学会へ総説「クマガラの生態と本州における研究小史」投稿中。
	国内および県内における鳥類分布に関する研究	岩手県産の鳥相に関する研究	藤井 忠志	これまでの継続調査でサンコウチョウの謎の生態に焦点をあてた調査を実施しようと張り切っていたが、肝心の営巣地をついに探し出すことができないで、繁殖シーズンを経過した。その分、オオホシハジロ・アオバト・ベニマシコ等の珍鳥調査を実施できた。NHK「おぼんですいわて」の番組からは、何度もコメントを求められ、その都度、対応した。
	地域の生物分布と生態に関する研究	岩手県内における生物分布と生態に関する研究	渡辺 修二	県内に生息する116種(県未記録種10種を含む)のクモの生態や、各環境におけるクモ相の特徴、県内のクモに関する俗信・伝承、クモ学者片岡佐太郎氏の業績をまとめ、企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」を展示したほか、図録を出版した。 滝沢市及び金ヶ崎町の依頼により、各河川におけるカワシンジュガイの生息状況を調査し(1)新たな生息地、(2)人工河川における生息状況及びそれらに依存するタナゴの生息を確認した。 安家川の底生生物相(主に水生昆虫)について、岩手大学との合同調査を行った。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする植物の分布と生態に関する研究	鈴木まほろ	環境省レッドリスト改訂のための調査や県レッドデータブック追跡調査を兼ねて、県内の絶滅危惧植物の生育と個体数の確認を行い、結果を県などに報告した。調査地は早池峰山・焼石岳・姫神山・水上山・陸前高田市・住田町・久慈市など。また早池峰山登山道沿いにおいてニホンジカの食痕調査を継続し、結果を県などに報告した。 早池峰山でヒメスズムシシウを確認し、「東北地方におけるヒメスズムシシウの初記録」として日本植物分類学会「植物地理・分類研究」に投稿し掲載された(第66巻第2号175-176頁・八重樫理彦氏と共著)。
		県内の植物相の研究	鈴木まほろ	岩手県植物誌調査会との合同事業として、田野畑村・山田町・紫波町など過去に調査記録の少ない地域を選んで植物相の現地調査を行い、約1000点の標本を新たに採集した。
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	小山内透 濱田宏 金子昭彦	鳥畑壽夫コレクション・草間俊一コレクションについては、収蔵目録の発刊に向け、資料調査と整理を継続した。小岩末治コレクションについては、「収蔵目録考古Ⅶ 小岩末治コレクション その1」を刊行しており、「その2」の発刊に向け、残る資料の写真・古文書等の資料調査・整理を継続した。
	先史時代の考古学的研究	縄文時代の土偶の研究	金子昭彦	今年度は、専門とする遮光器土偶を「他時期・他地域」の土偶と比較することで理解を深めることを主目的とした。「関東地方の遮光器系土偶」と比較し、その成果を館内調査研究報告会で発表する。また、その一環で、群馬県立歴史博物館で開催されるハート形土偶展を見学する予定だったが、企画展が来年度に変更になったため、各地の縄文時代に関する展覧会を見学し、その最新の研究成果を学ぶよう努めた。
	歴史時代の考古学的研究	縄文時代、古代における狩猟と生産	濱田 宏	縄文時代の狩猟用陥し穴とは年代も用途も異なる、平安時代の戦略的陥し穴「陥馬坑(かんばこう)」について考察した。
		岩手の古代鉄生産の研究	小山内透	(一社)日本鉄鋼協会 第176回秋季講演大会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム講演会において、復興関連調査から見えてきた岩手県沿岸部の製鉄遺構の構造変遷について発表した。 福島県立子山たたら実行委員会による古代の塹形炉を復元して行われたタタラ製鉄実験操業に参加した。 上記の日本鉄鋼協会の発表内容と立子山たたら操業実験の様子について日曜講座で公開した。
歴史時代の考古学的研究	平泉文化についての研究	小山内透 濱田宏 金子昭彦	3年目となる金ヶ崎町観音寺廃寺(町史跡)の測量調査を行った。調査の最終年度となる今年度は、残っていた遺跡北東部の礎石建物周辺を重点に実施した。今年度末には、3か年の成果を調査研究報告書第34冊にまとめ、この発刊をもって県からの受託事業「前平泉文化研究」はすべてを終了する。	

部門	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
歴史	古代～中世史の研究	古代・中世における岩手と中央政治との関係に関する研究	佐々木康裕	昨年度、一昨年度に引き続き、中世の諸史料および近世編纂史料にみえる中世南部氏の動向について、具体的な事例収集とその考察を行った。さらに今年度は、銀河鉄道観光(株)の企画旅行「旅する南部塾」で県内外様々な史跡を巡検する機会を得た。日常の研究に加えて、講師として解説を担当するために必要な情報収集も行った。こうした調査研究の成果は、当該旅行に同行した際の解説、県博日曜講座、依頼講演、出前講座などの場において公表した。
	近世史の研究	岩手の往来の研究	菌田貴弘	担当のテーマ展に向けて、宮古街道の調査を行った。特に宮古市の教育委員会市史編さん室の方には貴重な資料を提供していただいた。
	前近代における美術工芸の研究(古美術)	藩政期の美術工芸の研究	原田祐参	盛岡藩執務日誌『雑書』等の記述から、藩お抱えの刀鍛冶である新藤家の系譜を継続して調査した。併せて、当館所蔵の新藤家鍛造の刀について、代ごとの製作のあり方について再検討した。
	近代・現代史の研究	明治の自由民権運動にみる人々の政治参加への意識	武田麻紀子	2018年が戊辰戦争から150年の節目の年だったということもあり、各地で行われた展覧会および講演会に参加し、盛岡藩を中心に戊辰における奥羽諸藩の動向および戊辰戦争が明治期の東北の政治運動にどのようにつながっていくのかについて、資料調査を行った。そして、博物館だよりのいわて文化ノート、日曜講座および出前講座、トピック展において調査研究の成果を発表した。
民俗	有形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 米田 寛	所蔵の資料の現状調査とともに、県内の民具全般について他施設の状況把握など資料収集・調査を行った。
	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 米田 寛	県内の操人形(人形歌舞伎)にかかわる現状調査および当館所蔵の操人形に関する情報収集、沿岸地域のまつり・民俗芸能の情報収集を行った。
	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	近藤 良子	民家の活用事業として、わら細工実演を5月13日(日)に実施した。テーマ展「祈りにみる動物たち」コラボ企画として、旧佐々木家住宅において9月28日(金)～10月5日(金)まで写真展「いわての動物たち」を開催した。
	民間信仰に関する研究	動物にまつわる信仰・俗信の研究	近藤 良子	H30年度テーマ展「祈りにみる動物たち」開催にあたり、県内の動物にまつわる俗信や信仰資料を調査し、その成果を展覧会、県博日曜講座、展示解説会、コラボ企画バスツアー現地説明会、博物館だよりに、出前講座等で公表した。また、陸前高田市の猫淵神社残存絵馬約400枚について資料の保存・記録作業を行った。 村田民芸工房所蔵故村田三樹二郎氏所蔵の全国の郷土玩具の調査研究、整理作業を行った。
	生業に関する研究	漆工芸に関する研究	木戸口俊子 近藤 良子 米田 寛	漆工芸家故古関六平氏の漆工芸作品や製作過程に関わる材料や道具等についての調査研究を行った。また、テーマ展新収蔵資料展において展示した古関六平コレクションのうち、帽子掛けけし、漆絵「温花」、乾漆漆器、木地山系こけしについて調査を行った。 文化史展示室において当館所蔵資料による江戸時代～大正時代にかけての御膳配置を再現し、それに係る文化的背景を考察した。
文化財科学	文化財の保存環境に関する研究	省エネを意識した文化財の湿度環境保全方法の開発	赤沼 英男 丸山 浩治	収蔵庫、展示場、展示ケース等にパッシブインジケーターを設置し空気環境を調査した。加えて、一部の収蔵庫、展示場、展示ケースについては、気体を採取し、ガス分析を実施した。その結果、文化庁が定める基準値を上回るギ酸、酢酸、アンモニア、ホルムアルデヒドが発生している空間や展示ケースが確認された。この現象は、製作に使用された木材、結露・漏水によるコンクリート躯体の湿潤化、展示パネルの劣化によって生じている可能性がある。今後、更なる調査を進める予定である。

部門	テーマ	小テーマ	氏名	研究成果
文化財科学	文化財の製作技法に関する研究	前近代の鉄製文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼 英男	<p>北海道のオホーツク文化に伴う遺跡から出土した鉄器・鉄塊の金属考古学的調査結果を集成した。併せて、ほぼ同時期の東北地方及び関東地方から出土した鉄器との比較検討を行った。左記成果については、2019年度に発表する予定である。</p> <p>2015年及び2016年にトルコ共和国カマン・カレホック遺跡から出土した鉄塊系資料及び炉壁材の調査を実施し、中央アナトリア高原におけるアッシリア商業植民地時代及び前期青銅器時代の鉄・鉄器生産の具体的方法について推定した。</p> <p>成果の一部を公益財団法人アナトリア考古学主催、第29回トルコ調査研究会(学習院大学,H31.3.26)で報告した。</p>
		前近代の非鉄金属文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼 英男	<p>青森県八戸市丹後平15号墳出土環頭大刀柄頭及び14号墳出土飾金具の表面分析を実施した。その結果、いずれも真鍮製で、前者は水銀アマルガム法による塗金が施された可能性の高いことが分かった。並行して行われた柄木の放射性炭素年代測定によって、環頭大刀柄頭は7世紀後半に製作された資料と推定された。これまでわが国における最古の真鍮を素材とする金属器として正倉院宝物が知られているが、一連の調査を通じ、丹後平古墳出土墳環頭大刀柄頭は、目下のところわが国で最も古い真鍮製の資料であることが判明した。研究の成果は『丹後平古墳群と蝦夷の世界 国重要文化財指定記念特別展図録』八戸市立博物館発行に掲載された。</p>
		土製文化財の製作技法に関する文化財科学的研究	赤沼 英男 丸山 浩治	被災した縄文土器小片を使用し、津波による汚損状況と精製水による洗浄の有効性について基礎実験を実施した。
		前近代における彩色・塗膜技法に関する研究	赤沼 英男	福井県一乗谷朝倉氏遺跡出土漆器の塗膜断面構造解析結果および10～11世紀に比定される蟹仙洞所蔵漆器の塗膜断面構造解析結果を基に、大陸から伝来した漆工芸品の製作技法上の特徴を整理した。
	文化財の保存修復に関する研究	土製文化財の保存処理方法の研究	赤沼 英男 丸山 浩治	平成29年度の研究成果をふまえ、被災した縄文土器を使用し、津波による汚損状況と精製水による洗浄の有効性に関する基礎実験を実施した。
		海水損資料の安定化処理法および抜本修復法に関する研究	赤沼 英男 丸山 浩治	津波で被災した紙製資料において確認された異臭の発生と変色の主因である残留脂質やたんぱく質の来歴を明らかにするため、資料に固着する土砂を東京文化財研究所と共同で調査した。その結果、残留物質は魚介類、とりわけ海藻に起因する可能性の高いことが明らかとなった。一連の調査結果を学術誌(保存科学 58号)で発表した。被災した写真プリントの安定化処理方法、とりわけ脱塩・脱脂の有効性に関する基礎実験を行い、その成果の一部を第35回文化財科学会(奈良女子大学,2018.7.8)で発表した。
	文化財科学的手法を用いた前近代における物質文化の変遷に関する研究	文化財科学的手法を用いた自然災害史研究	丸山 浩治	十和田10世紀噴火の影響が物質文化に現れていないか検証するための前提として、火砕流、火山泥流、降灰の各噴火現象が地域集団・集落到どの程度の影響を及ぼしたのかを調査・分析した。

表5(3)-2 調査研究活動に関わる製作・同定・借り上げ

部門	事業名	内容
地質	岩石標本箱製作	岩手県立博物館規格の木の木製岩石標本箱(浅箱)を9個製作した。
	岩石薄片製作	平成30年度は製作を行わなかった。
生物	植物等標本同定	変形菌標本24点を玉山光典氏(盛岡中央高等学校教諭)に同定していただいた。
文化財科学	微小X線構造解析	前近代の資料に固着する赤色物質の同定を行った。

## イ. 館内調査研究報告会

日時：平成31年3月4日(月) 9:30～16:00

9:30～9:40 開会行事

挨拶 高橋 廣至(館長)

### I 個別調査研究 (発表 12 分、質疑 3 分)

午前の部

- |   |       |
|---|-------|
| 9:45～10:00 宮古街道と藤田武兵衛との関わり                        | 藺田 貴弘 |
| 10:00～10:15 東北からみた戊辰ー150年という視点ー                   | 武田麻紀子 |
| 10:15～10:30 盛岡藩の甲冑調査                              | 原田 祐参 |
| 10:30～10:45 中世南部氏の動向に関する一考察                       | 佐々木康裕 |
| 10:45～11:00 〔休憩〕                                  |       |
| 11:00～11:15 遺跡からみた十和田 10 世紀噴火イベントの影響ー火砕流・火山泥流・降灰ー |       |
|   | 丸山 浩治 |
| 11:15～11:30 表面分析法による文化財の表面形状と材質調査                 | 赤沼 英男 |
| 11:30～11:45 復元古代竪形炉(立子山たたら)によるタタラ操業実験について         | 小山内 透 |
| 11:45～12:00 金ヶ崎町「観音寺廃寺」調査報告                       | 濱田 宏  |

午後の部

- |  |       |
|--|-------|
| 13:00～13:15 関東地方の遮光器系土偶は誰が作ったか         | 金子 昭彦 |
| 13:15～13:30 東北北部における古代赤彩土器研究           | 米田 寛  |
| 13:30～13:45 鋳師 小山和吉について                | 木戸口俊子 |
| 13:45～14:00 県内の動物にまつわる俗信と信仰            | 近藤 良子 |
| 14:00～14:15 2018 年北海道で見たもの(北海道胆振東部地震)  | 山岸 千人 |
| 14:15～14:30 〔休憩〕                       |       |
| 14:30～14:45 野田村米田海岸に見られる白亜系生痕化石        | 望月 貴史 |
| 14:45～15:00 人工水路におけるカワシンジュガイの生息と繁殖の可能性 | 渡辺 修二 |
| 15:00～15:15 早池峰山におけるシカ食痕調査とヒメズムシノウの発見  | 鈴木まほろ |
| 15:15～15:30 本州産クマガラの巣立ち雛数と性比そして現状      | 藤井 忠志 |

### II 部門別調査研究・40 周年展進捗

15:30～16:05 〔 歴史・文化財科学・考古・民俗・地質・生物・40 周年 〕

16:05 閉会行事

講評 千葉 徳郎(副館長)

## ウ. 調査研究成果の公表

### (ア) 「岩手県立博物館研究報告第 36 号」

A4 判・14 頁・平成 31 年 3 月発行

米田 寛 「宮城県栗原市泉谷館跡出土赤彩土器の内容物について」

望月 貴史 「野田村米田海岸に分布する上部白亜系久慈層群下部国丹層から産出する生痕化石」

### (イ) 「岩手県立博物館研究報告書 第 34 冊」

A4 判・14 頁・平成 31 年 3 月 25 日発行

全平泉文化関連遺跡調査報告書「観音寺廃寺測量調査」

### (ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作

#### a. 口頭発表等

- ・ 武田昭子・赤沼英男・荒木臣紀・熊谷賢・浅川崇典：津波被災した写真プリントの再生について．第35回文化財科学会，2018年6月，奈良市
- ・ 小山内透：復興関連調査から見てきた岩手県沿岸部の製鉄遺構の構造変遷．一般社団法人日本鉄鋼協会第176回秋季講演大会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム，2018年9月，仙台市
- ・ 金子昭彦：岩手からのコメント 岩手県における縄文時代中期中葉の土偶．第16回土偶研究会，2019年3月，山形市
- ・ 鈴木まほろ：日本の大学に所蔵される自然史標本（アンケート調査より）．第66回日本生態学会大会，フォーラムU10「大学にある自然史標本をどう守るか」，2019年3月，神戸市
- ・ 赤沼英男：カマン・カレホユッケ第ⅢC層および第Ⅳa層出土鉄関連資料から推定される鉄・鉄器生産活動．第29回トルコ調査研究会，2019年3月，東京都

#### b. 論文・報文

- ・ 金子昭彦(2018)土偶用途論に対する疑問．DOGU，創刊号：27-44.査読なし
- ・ 金子昭彦(2019)東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(4)．(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要，(38)：17-40.査読なし
- ・ 金子昭彦(2019)東北地方北部における装身具の弥生化．岩手考古，(30)：19-28.査読なし
- ・ 金子昭彦(2019)水野正好「土偶祭式」説の検証(上)．青森県考古学，(27)：77-96.査読なし
- ・ 鈴木まほろ・渡辺修二・望月貴史・堀内慈恵・馬谷原武之・金杉隆雄(2018)自然史標本の管理全般に関する専門研修について(特集 学芸員の専門的スキルアップをめざす研修プログラム)．博物館研究，53(10)：18-23.査読あり
- ・ 佐野千絵・赤松英男(2019)津波被災資料に付着した汚れの成分分析とその由来．保存科学，(58)：139-148. 査読あり
- ・ 望月貴史・山岸千人(2018)平成29年度岩手県立博物館第73回地質観察会報告 三陸ジオパークの白亜紀の地層を読む．岩手の地学，(48)：110.査読無し
- ・ 山岸千人・望月貴史(2018)平成29年度岩手県立博物館第74回地質観察会報告 平泉～泉の仕組みを読み解く．岩手の地学，(48)：111.査読無し
- ・ 渡辺修二・千葉武勝(2018)甲虫コレクションガイド(12)岩手県立博物館の甲虫コレクション.さやばねニューシリーズ，(31)：23-26.査読なし
- ・ Tatsuo Oji, Stephen Q. Dornbos, Keigo Yada, Hitoshi Hasegawa, Sersmaa Gonchigdorj, Takafumi Mochizuki, Hideko Takayanagi and Yasufumi Iryu (2018) "Penetrative trace fossils from the late Ediacaran of Mongolia: early onset of the agronomic revolution" ROYAL SOCIETY OPEN SCIENCE, 5(2): 172250.査読あり
- ・ 丸山浩治「平安時代の十和田火山噴火災害と地域社会の対応」季刊考古学第146号. 雄山閣, 2019年1月
- ・ 米田 寛・高橋静歩・河本純一「岩手県における古墳時代～平安時代の赤彩土器研究(3)」紀要38号 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：59-78 2019年3月
- ・ 渡辺修二「採集情報 ウデグロカクハエトリ」遊絲No. 43 日本蜘蛛学会2018年12月

#### c. 新聞その他の著作

読売新聞岩手版 「土曜博物館」 各月第1・3・5土曜日掲載

- ・ 濱田宏(考古学部門)「縄文時代の漁労具-現在に通じる製作技術-」2018年4月28日
- ・ 武田麻紀子(歴史学部門)「北上川-町の繁栄支える-」2018年5月19日
- ・ 佐々木康裕(歴史学部門)「三戸南部氏の系図-2種類の相違点を探求-」2018年6月2日
- ・ 小山内透(考古学部門)「羽口-古代の鉄作り支えた管-」2018年6月16日
- ・ 渡辺修二(生物学部門)「オナガグモ-細長い姿 獲物はクモ-」2018年7月7日
- ・ 丸山浩治(文化財科学部門)「ゾーニング-文化財守る区画分け-」2018年7月21日
- ・ 赤沼英男(文化財科学部門)「広田湾の海苔養殖-被災した資料を再生-」2018年8月4日
- ・ 藤井忠志(生物学部門)「ニホンオオカミ-明治期 急速に姿消す-」2018年8月18日

- ・ 原田祐参(歴史学部門)「助真-福岡一文字の流れを汲む刀-」 2018年9月1日
- ・ 鈴木まほろ(生物学部門)「ニホンジカ-近年急増 生態系に影響-」 2018年9月15日
- ・ 米田寛(民俗学部門)「カマドのはなし-」 2018年9月29日
- ・ 小山内透(考古学部門)「竈-炉に送風燃焼効果高める-」 2018年10月6日
- ・ 近藤良子(民俗学部門)「供養碑-祈りにみる動物たち-」 2018年10月20日
- ・ 佐々木康裕(歴史学部門)「東鑑 弓馬に優れた近江の義経」 2018年11月3日
- ・ 赤沼英男(文化財科学部門)「実習船かもめ-海を超えた友情の証し-」 2018年11月17日
- ・ 山岸千人(地質学部門)「災害と地形-自然現象は再び起こる-」 2018年12月1日
- ・ 藤井忠志(生物学部門)「根付け-ニホンオオカミ痕跡出現-」 2018年12月15日
- ・ 金子昭彦(考古学部門)「イノシシ-判別困難 縄文期の土製品-」 2019年1月19日
- ・ 原田祐参(歴史学部門)「イノシシと切手-様々な書体の「亥」力強く-」 2019年2月2日
- ・ 鈴木まほろ(生物学部門)「アザミ-県内でも発見 名前に地名-」 2019年2月16日
- ・ 木戸口俊子(民俗学部門)「キリガシ-今も残る70年前の雛菓子-」 2019年3月2日
- ・ 渡辺修二(生物学部門)「鳥 現代の恐竜示す展示」2 019年3月16日
- ・ 藺田貴弘(歴史学部門)「宮古街道-難所続き 歴史刻む橋巡る-」 2019年3月30日

朝日新聞岩手版 「県立博物館へようこそ」 各月第2土曜日掲載

- ・ 山岸千人(地質学部門)「岩手の火山-常設展と眺望を体験して-」 2018年4月14日
- ・ 金子昭彦(考古学部門)「弥生時代-銅鐸に描かれた階級社会の始まり-」 2017年6月9日
- ・ 渡辺修二(生物学部門)「岩手のクモ-体にぐるり 優れた目を配置」 2018年6月9日
- ・ 望月貴史(地質学部門)「モシリユウ 幸運な偶然、恐竜化石の発見」 2018年7月14日
- ・ 武田麻紀子(歴史学部門)「明治14年-岩手の視座から 東北から国を変える意気」 2018年8月11日
- ・ 近藤良子(民俗学部門)「祈りにみる動物たち-神仏への願い託す存在-」2 018年9月8日
- ・ 木戸口俊子(民俗学部門)「オオカミ-身近な害獣が信仰の対象にも-」 2018年10月13日
- ・ 濱田宏(考古学部門)「塩づくりと流通-平安時代、越後から盛岡に送る-」 2018年11月10日
- ・ 丸山浩治(文化財科学部門)「津波かぶった収蔵品-再生の歩み紹介する展示-」 2019年1月19日
- ・ 米田寛(民俗学部門)「古代の「赤」-厄よけ、招福・・・力宿る色-」 2019年2月9日
- ・ 藺田貴弘(歴史学部門)「宮古街道-豪商が作った新道三十里-」 2019年3月9日

## エ. 研究受託実施状況

文化財の自然科学的調査によって、内部構造、材質、製作技法、劣化状況等に関する客観的情報を得ることができる。得られた情報を基に、後世に長く伝えるための措置が施され、同時に過去の物質文化交流を解明するた

表5(3)-3 平成30年度研究受託実地実績

受託内容	件数	委託機関
被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災自然史関連資料修理業務	1	教育委員会
被災昆虫標本修理業務	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除(くん蒸)業務	8	教育委員会、資料館等
被災民俗資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災コレクション安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災考古資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
出土遺物X線透過業務	1	教育委員会
鉄製品の保存処理業務	2	市長部局

めの研究が進められる。自然科学的方法を用い、過去を解明する手がかりとなる学術情報を提供している機関は全国的にみてもきわめて少ない。

岩手県立博物館では調査研究成果の還元と学術情報の一層の収集を目的として、平成 2 年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する研究受託を実施している。平成 24 年度からは東日本大震災で被災した文化財の安定化処理および修理を開始した。平成 30 年度の研究受託実績は表5(3)-3 に示すとおりである。一連の研究を通して得られた学術情報に、人文社会科学の研究成果を重ね合わせ、文化財の保存を図るとともに、過去を解明するうえでの学術情報の発信に努めている。

## オ. 前平泉文化研究受託事業（前平泉文化の研究）

考古部門では、岩手県教育委員会からの委託により、平成 12 年度から奥州藤原氏関連遺跡の考古学調査として「衣川流域及び人首川流域における遺跡の分布調査」「紫波町域における積石状塚の調査」「比爪館跡の微細地形測量調査」を実施し、それぞれの成果を岩手県立博物館調査研究報告書として3冊刊行してきた。平成 28 年度から今年度までの3年間は、安倍氏との関連が言われる金ヶ崎町観音寺廃寺遺跡の微細地形測量を実施し、同報告書第 34 冊として報告書を発行することで十数年にわたって行われた前平泉文化研究事業の一切を終了した。今年度の調査では、以前金ヶ崎町教育委員会が確認していた礎石建物群周辺についても詳細な測量調査を行う予定であったが、諸般の事情により断念せざるを得なかった。

## カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物・古生物標本資料 11,500 件について、データ整理・整形を行い、提供した。

## キ. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成 11 年度から実施している。研究協力員としての活動期間は 3 年間で、申請・審査を経て更新することができる。

平成 30 年度は 3 名の更新が承認された。平成 31 年 3 月末現在で 14 名（下記一覧、順不同）となっている。

### ○研究協力員(更新)

- 1 沼宮内耕作(元当館学芸部長):岩手県の蘚苔類相[生物部門]
- 2 土谷信高(岩手大学教育学部教授):岩石・鉱物を素材とする文化財の材質・製作技法に関する研究[文化財科学部門]
- 3 女鹿潤哉(元主任専門学芸員):古代・中世の東北地方と北海道における物質文化交流についての文化財科学的研究[文化財科学部門]

### ○研究協力員(継続)

- 4 吉田 充(元当館学芸第三課長・生涯学習文化財課文化財専門員):大鉢森山周辺に分布する母岩変性岩類から産出する金属資源(金)の研究等[地質部門]
- 5 大石雅之(元当館学芸部長):岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究[地質部門]
- 6 工藤統一(元当館学芸第二課長):岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究[民俗]
- 7 玉山光典(盛岡中央高等学校教諭):日本(特に岩手県)の変形菌相[生物部門]
- 8 後藤友明(岩手大学農学部准教授):魚類分類学[生物部門]

- 9 大友令史(岩手県病害虫防除所):病害虫の生態的研究〔生物部門〕
- 10 藤井千春(元当館主任専門学芸員・盛岡市立高等学校教諭):北日本における発光生物の生態学的研究〔生物部門〕
- 11 目時和哉(元当館学芸調査員・岩手県立盛岡第一高等学校教諭):前近代の東日本太平洋沿岸部における他地域との物質文化交流に関する学際的研究〔文化財科学部門〕
- 12 吉田裕生(元当館学第二課長):東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究〔地質部門〕
- 13 千葉武勝(元岩手県病害虫防除所長):昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作製、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 14 沼宮内信之(日本森林技術協会):岩手県の植物相〔生物部門〕

## (4) 資料収集保管活動

### ア. 資料の収集整理

平成30年度3月末現在の登録資料数は7,933点で、開館以降の累計は310,044点にのぼる(表5(4)-1)。今年度県内外の方々のご厚意によって当館が受贈した資料は22件、3,070点と2箱(地質資料)である(表5(4)-2)。

表5(4)-1 平成30年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採集	29年度末累計	2,959	29,397	922	3	77	33,358
	30年度計	4	174	-	-	-	178
	累計	2,963	29,571	922	3	77	33,536
発掘	29年度末累計	209	-	3,470	-	-	3,679
	30年度計	-	-	-	-	-	-
	累計	209	-	3,470	-	-	3,679
寄贈	29年度末累計	4,385	130,379	53,408	32,590	18,219	238,981
	30年度計	481	7,246	-	5	22	7,754
	累計	4,866	137,625	53,408	32,595	18,241	246,735
購入	29年度末累計	1,398	12,166	267	6,975	2,520	23,326
	30年度計	-	-	-	-	-	-
	累計	1,398	12,166	267	6,975	2,520	23,326
製作	29年度末累計	115	510	95	114	466	1,300
	30年度計	-	1	-	-	-	1
	累計	115	511	95	114	466	1,301
所管換	29年度末累計	1	84	-	1,104	278	1,467
	30年度計	-	-	-	-	-	-
	累計	1	84	-	1,104	278	1,467
合計	29年度末累計	9,067	172,536	58,162	40,786	21,560	302,111
	30年度計	485	7,421	-	5	22	7,933
	累計	9,552	179,957	58,162	40,791	21,582	310,044

新規登録資料点数は生物部門が最も多い。昆虫標本を主体に7,421点で全体の約94%を占める。地質部門では中生代白亜紀後期の国丹層のイノセラムスの一種や種市層のナミガイ、中生代白亜紀前期の宮



古層群産のアンモナイトなど 485 点を、生物部門では千葉武勝氏の二戸市稲庭岳調査関連の昆虫標本、当館と岩手県植物誌調査会が採集した植物標本など 7,421 点を、歴史部門では藤島静村画の帯、反物、鯉図など 5 点を、民俗部門では同年に寄贈された盛岡竿や菓子びつなど 22 点を、それぞれ登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、平成 23 年度の試行結果を踏まえ、当館では資料登録を平成 24 年 4 月から早稲田システム開発㈱が提供する I.B.Museum SaaS により行っている。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。このシステムを使用し、現在 731 点の当館所蔵の資料情報を公開中である。

表5(4)-2 30年度の主な受贈資料

部門	寄贈者 (敬称略)	居住地・ 所在地	資 料 名	数 量
地質	笹本 清一	八戸市	洋野町、野田村、久慈市産白亜系化石	953
	小守 一男	盛岡市	田野畑村産宮古層群化石	558
	山岸 ミヨ	盛岡市	地図、設計図、坑道図、鉱物標本、測量用具	279
生物	玉山 光典	盛岡市	変形菌標本	1
	根口 良子	滝沢市	蝶の標本	845
	—	—	冬虫夏草	2
	大森 旭	盛岡市	剥製、毛皮	31
	吉田 修次	盛岡市	パノラマ写真	1
	武田 眞一	盛岡市	スマレ科押し葉標本	264
	中屋敷 徳	矢巾町	押し葉標本(トリカブト属)	37
考古	高橋 昭治	岩手町	沼崎遺跡出土土器(接合資料 42 個体、破片資料 4 袋分)	42
歴史	望月 正彦	盛岡市	『日露戦役三十年 非常時に対する我等国民の覚悟』、出征国旗	2
	遠藤 公男	宮古市	ニホンオオカミの根付と印籠	2
	角掛 歌菜	二戸市	『高等小學讀本 第五』	1
民俗	秋澤 武彦	盛岡市	ワープロ(National パナソニック FW-U1P)	1
	野崎 他夫	盛岡市	郷土玩具(チャグチャグ馬コほか)	3
	横澤 忠	盛岡市	竿秤	1
	齊藤 富子	滝沢市	衣桁、編み機	2
	藤井 忠志	盛岡市	ワープロ(SANYO sanword-360)	1
	小原 伸夫	盛岡市	洗濯機(カモメホーム洗濯機)	1
	高橋 昭治	岩手町	馬場焼(葛巻)関係資料	27
	泉山 恵一	盛岡市	菓子櫃、浄法寺椀、小皿、盛岡竿	16

※ 一部は寄贈者の希望により掲載しない。

計 22 件 3,070 点

表5(4)-3 資料の製作

部門	名 称	内 容 の 概 略
歴史	甲冑レプリカ製作	体験学習室で使用する稚児鎧3領を製作した。
生物	シロエリオオハムの剥製製作	アビの仲間であるシロエリオオハムの剥製を製作した。

表5(4)-4 資料の補修、用品類の購入

部 門	事 業 名	内 容
第 二 課	館内環境維持	除湿機 8 台
民 俗	新収蔵展関連	淡路人形展示用演示具

表5(4)-5 機器類の保守点検と修繕

項 目	部 門	機 器 名 また は 内 容
保守点検	歴 史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム(文化財科学室・器具庫・X線分析室空気清浄化システム)、表面分析装置(蛍光X線分析装置・X線回折装置)、微量化学分析装置(ICP発光分光分析装置)、汎用科学分析装置(赤外分光光度計・示差熱重量同時分析装置)、保存処理機器(小型真空凍結乾燥機・真空樹脂含浸装置)、博物館資料滅菌システム(文化財滅菌装置・ガス漏れ検知器)
修 繕	文化財科学	軟X線非破壊検査装置、小型真空凍結乾燥機、ICP発光分光分析装置、示差熱重量同時分析装置、ドラフトチャンバー、分析天秤、蒸留水製造装置、塩素イオンメーター、グラインダー
その他	文化財科学	全館くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

## イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

### (ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出の要請があり、実物資料については22件・144点、画像(写真)資料については52件・143点の貸出を行った(表5(4)-6)。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた(表5(4)-7)。

### (イ) 資料の熟覧・撮影等

他施設の職員による展示会等の事前調査や研究者による収蔵資料の熟覧・撮影希望も多数あり、これらの業務に各部門で対応した(表5(4)-8)。

表5(4)-6 資料の貸出

担当部門	貸 出 先 (所在地)	資 料 名	数 量
地 質	奥州市牛の博物館	鯨類肋骨片化石、オンマイシカゲガイ化石、タカハシホタテ化石ほか	10
	深沢紅子野の花美術館	花崗岩、琥珀、蛇紋岩、磁鉄鉱黄銅鉱石、磁鉄鉱、バラ輝石ほか	15
	釜石市産業振興部世界遺産課	壺ノ沢変成岩、蛇紋岩、樋口沢シルル紀サンゴ化石、金鉱石ほか	7
生 物	村田町歴史みらい館	ニホンオオカミ頭骨、イヌ頭骨	2
	北海道大学大学院水産科学院	マルヒウチダイ	1
	玉山光典	菊池理一変形菌コレクションRK93(標本)	1

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	数量
考古	北上市立博物館和賀分館	北上市和賀町愛宕山遺跡出土資料(当館発掘資料)	6
	(公財)郡山市文化・学び振興公社 大安場史跡公園管理センター	奥州市教育委員会所蔵 中半入遺跡出土須恵器2点(常設展示資料)	2
	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	盛岡市萩内遺跡出土大型土偶頭部(復元製作品)	1
	八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	白浜貝塚出土貝輪、赤浜貝塚出土骨製垂飾り、中沢浜貝塚出土鳥骨製腰飾り	3
	八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	馬立Ⅱ遺跡出土狩猟文土器、手代森遺跡出土動物形中土製品ほか	26
	山田町教育委員会	萩内遺跡出土大型土偶頭部(復元製作品)、手代森遺跡出土遮光器土偶(復元製作品)	2
歴史	盛岡市先人記念館	国分謙吉「恵風和調」、高村光太郎原稿「岩手の人」	2
	一関市博物館	刀架	15
	一関市博物館	奥羽寒図記四巻、艀船模型(木造模型)、盛岡城下鳥瞰図ほか	9
	弘前市立博物館	鳳凰文高蒔絵鞍、鳳凰文高蒔絵鏡	2
民俗	村田町歴史みらい館	絵札(狼図像「三峯神社 火防御守護」、狼図像「三峯神社」ほか)	4
	紫波町図書館	土人形(紫波人形)	7
	一関市教育委員会	絵馬「猫図」	8
	もりおか歴史文化館	早川電気工業コンベット、かもめ印マジック洗濯機、洗濯板ほか	5
	深沢紅子野の花美術館	雫石地域の野良着メアテ、テッコー、シハンコ	3
	盛岡市教育委員会	民謡CD、民謡テープ	13

計 22 件 144 点

表5(4)-7 画像資料の貸出

部門名	貸出先	資料名	点数
地質	国土防災技術(株)盛岡支店	岩手県の地質概略図	1
	大阪大学総合学術博物館	イチノヘサイ大腿骨	1
	有限会社 ハユマ	ハドロサウルス類の奥歯デンタルバッテリー構造、モンリュウの上腕骨	2
	有限会社 ハユマ	ケイチョウフィラム、レプトプレウム、プテロトリゴニア化石、デスモスチルス臼歯	4
	株式会社ベネッセコーポレーション	ハナイズミモリウシ	1
	株式会社岩手日報社読者センター	岩泉町の白亜紀の地層(見学会の様子)、モンリュウの上腕骨のレプリカ	2
生物	一般財団法人 自然環境研究センター	ヤブヒョウタンボク(全体)、ヤブヒョウタンボク(花)、ヤブヒョウタンボク(若い果実)	3
考古	IVS テレビ制作株式会社	手代森遺跡の遮光器土偶	1
	中央出版株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	花巻市博物館	熊堂古墳群野外調査写真	19
	登米市歴史博物館	高橋清治郎書簡(小田島コレクション)、拓本資料	2
	小学館 第三児童学習局	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録をめざす道民会議	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1
	株式会社 羽根木	手代森遺跡出土遮光器土偶、豊岡遺跡出土土偶、同土器、萩内遺跡出土大型土偶頭部	4
	株式会社 目の眼	手代森遺跡出土遮光器土偶、岩手県立博物館外観、縄文遺物の展示風景	3
	株式会社カガミ	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	沖縄県立博物館・美術館	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1
	株式会社スタッフラビ	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	株式会社フォト・オリジナル	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	(一社)岩手県文化財愛護協会	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1
	東京国立博物館	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1

部門名	貸出先	資料名	点数
歴史	一関市博物館	奥羽寒図記四巻、船船模型(木造模型)、盛岡城下鳥瞰図ほか	9
	胆江日日新聞社	大日本全国之内奥州一円誌	1
	株式会社アフロ	俵物(フカヒレ、煎海鼠、干鮑)	3
	九度山・真田ミュージアム	鯨尾兜	1
	川口印刷興業株式会社	鯨尾兜、岩手県立博物館外観	2
	港区麻布地区総合支所	鯨尾兜	1
	黒済和彦	胆沢郡宇佐村佐野ノ里古塚より出土したもの絵図、東磐井郡摺沢村八幡宮付近より出土の絵図	2
	岩手県立盛岡第二高等学校	書「如意弘子終ものいう夜長かな」、書「月色三秋白」、書画帖「清楽帖」	3
	テレコムスタッフ株式会社	駝鈕銅印・部曲將印、駝鈕銅印・魏率善倭任長	2
	草加市立歴史民俗資料館	参勤行列図巻	1
	株式会社吉川弘文館	紙本着色鍛冶神図	1
	一戸町教育委員会生涯学習課	陸奥国二戸郡一戸村末ノ松山景	1
	祐川清人	大畑陣屋絵図	1
	V1パブリッシング	鯨尾形兜	1
	株式会社ポイントライン	秀衡椀(割菱に若松文三ツ椀、箔絵花文三ツ椀)	2
	株式会社K&Bパブリッシャーズ	盛岡城下鳥瞰図	1
	細田博子	鯨尾形兜	1
	岩手県教育委員会事務局生涯学習課	鯨尾形兜	1
	沖縄県教育委員会	俵物(フカヒレ、煎海鼠、干鮑)	3
	いしかりガイドボランティアの会	川口月村「北海図志」	1
田子町教育委員会	鯨尾形兜	1	
株式会社ゴシック	鯨尾形兜	1	
ABCラインビジネス	鯨尾形兜	1	
民俗	深沢紅子野の花美術館	雫石地方の野良着ミチカ、編み笠、マエブリ、シゴキほか	11
	秋田の史跡を学ぶ会	天明三年田山曆岩手県博本版(曆首部分)、同全体図	2
	盛岡市都南歴史民俗資料館	囲炉裏展示風景、めしじこ、卓袱台、ガス炊飯器、電気炊飯器、電気冷蔵庫、電気洗濯機、電気洗濯機(丸型)、手廻し洗濯機、洗濯板、サイカチの実、電気アイロン、扇風機	13
	株式会社帝国書院編集部第一編集部	ふかひれ、煎海鼠、干鮑	3
	岩手県立図書館	田山曆版木、田山曆(天明3年、天明7年)、盛岡曆(天保13年、嘉永8年、安政5年、万延2年、文久2年、慶応2年)、盛岡曆版木(明治29年阿部秀直版)、同版木(米沢京三版)	12
	葛飾区郷土と天文の博物館	岩手郡雫石御明神のオカザリ(森口多里コレクション)	1
	株式会社盛岡タイムス社	田山曆(天明3年複製)	1
	仙台白百合女子大学カトリック研究所	マリア観音像・不動明王像 版木	7

計 52 件 合計 143 点

表5(4)-8 資料調査の熟覧・撮影

部門	資料名	点数
地質	ホニウ類骨格標本	—
	三陸産アンモナイト化石	—
生物	ニホンツキノワグマ嬰兒	2
	アルビノのツキノワグマ	1

部 門	資 料 名	点数
生物	キバナガゴミムシ	2
	洞穴性プラナリア	1
	ハマヒナノウスツボ等	—
考古	馬立Ⅱ遺跡出土 壺形土器(狩猟文時土器)	1
	葦内遺跡出土土器	2
	貝島貝塚関係資料	20
歴史	太田孝太郎コレクション『夢庵藏印』の中から古璽印と印譜	2
	南部藩参勤交代絵巻(盛岡藩参勤交代図巻)	1
	艦船模型、小繰舟模型	2
	南部九牧之図	1
	盛岡城下図	1
	紙本著色鍛冶神図	3
	吉田家文書(文久3年、明和5年、明和6年、安政6年、蔓延元年、慶応1年、慶応2年、慶応3年)	8
民俗	鈴江家文書No. 13 「諸用書留帳」	1
	洗濯板、蠅取器、金盥、かもめ印マジック洗濯機	4
	絵札(狼図像「三峯神社火防御守護」)	4
	民謡テープ、CD	13
	雛人形(金田一コレクション)	5
	田山曆	3
	淡路人形	1
	木地山系伝統こけし	3

※ 点数欄の(—)は明確な点数が不明

## ウ. 文化財科学部門

岩手県立博物館には先人から伝えられた貴重な文化財や、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料が携えている様々な情報を、自然科学的方法で解析し読み解くと共に、貴重な学術資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えることを目的として、文化財科学部門が設置されている。

### (ア) 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を整える必要がある。岩手県立博物館では、収蔵庫及び展示場に温湿度記録計を設置し、継続的に温湿度変化を観察している。その結果にもとづき空調機を制御し、更に必要に応じて除湿機や加湿器を使用しながら、展示場、収蔵庫内の温度を 18～23℃、湿度を 50～60%に維持することに努めている。今年度は、老朽化したデータロガーを更新すると共に、収蔵庫、展示場、展示ケース内に除湿機を設置し展示・収蔵空間の温湿度変動をきめ細かく制御できるよう努めた。なお、特に精密な湿度管理を施す必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを活用している。劣化が進んだ出土金属器・木器については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

### (イ) 生物学的劣化からの防除

文書、書籍類、繊維製品、自然史標本等有機化学物質を素材とする資料は、虫や黴により食害される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫や黴が付着している可能性があり、有害生物を駆除することなく収蔵庫や展示場に運び込んだ場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫やカビから資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌装置でくん蒸を行っている。平成30年度の滅菌装置によるくん蒸実施状況は、表5(4)―9に示すとおりである。

表5(4)―9 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部門	資料種別	数量	単位	備考
民俗	民具等	66	箱	テーマ展用資料等
	その他	4	件	
生物	押し葉標本	13	箱	剥製
	昆虫標本(ドイツ箱入)	34	箱	
	その他	11	件	
地質	岩石・化石標本	17	箱	
歴史	軸装類	1	件	テーマ展用資料、戦時資料等
	その他	9	箱	
考古	土器	20	箱	

平成30年9月1日から10日まで、密閉くん蒸法により、第一・第二収蔵庫、いわて自然史展示室、歴史・古美術整理室、第二資料登録室及び第一書庫をくん蒸した。その後、有害な虫や黴の発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚に固着する塵埃の除去を行った。なお、平成30年8月及び10月には館内の害虫生息調査及び浮遊菌調査を、12月及び平成31年2月には浮遊菌調査を実施している。

平成31年度についても、有害な虫や黴の発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

#### (ウ) 資料の化学分析・保存処理

資料を現状のまま長く保存し活用するためには、資料の内部構造や製作に使用された素材の組成を把握する必要がある。岩手県立博物館では、EPMA(電子線・プローブ・マイクロアナライザー)、蛍光X線分析装置をはじめとする表面分析装置、高周波誘導結合プラズマ発光分光光度計などの微量分析機器を使用して、文化財を自然科学的方法で調査し、資料の素材に関する基礎情報を収集している。

調査の結果、劣化の進行が著しく、形状保全が難しいと判断された資料については、保存修復を施している。平成30年度の岩手県立博物館関係資料の科学分析・保存処理実施状況は表5(4)―10のとおりである。

表5(4)―10 館関係資料の科学分析・保存処理状況

分析・処理内容	点数
漆資料の自然科学的調査	7
紙製資料の自然科学的調査	92
土製資料の自然化学的調査	11
非鉄金属資料の自然科学的調査	12
鉄製試料の自然科学的調査	10
コハク資料の自然科学的調査	5

## (5) 総務企画調整

### ア. 総括出版広報

#### (ア) 印刷物

a. 博物館だより No.157～160 (A4判、8頁、各3,000部)

**157号:** 目次／第69回企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」表紙／いわて自然ノート「早池峰山の植物をニホンジカから守れるか」 p.2-3／展覧会案内第69回企画展「魅力的な八本脚の生きもの クモ」 p.4-5／充実した博物館活動 平成29年度岩手県立博物館入場者数5万人を突破 合同移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うとき in 釜石市」 p.6／活動レポート チャレンジ!はくぶつかん 活動レポート 博学連携プロジェクト～平館高等学校とのハンズオン資料の製作～ p.7／インフォメーション p.8

**158号:** 目次／テーマ展「祈りにみる動物たち」表紙／被災文化財再生をテーマとする2つの展覧会「明日につながる気仙のたからもの一津波で被災した陸前高田資料を中心に」と「未来への約束—いま語りはじめた気仙のたからもの—」をふりかえって p.2-3／展覧会案内 テーマ展「祈りにみる動物たち」p.4-5／事業報告 ゴールデンウィークスペシャルイベント 活動レポート 古文書入門講座 p.6／事業報告 県博バックヤードツアー p.7／インフォメーション p.8

**159号:** 目次／テーマ展「新・収蔵資料展～平成25(2013)年度からの新コレクション～」表紙／いわて文化ノート「東北からみた明治～150年という視点～」 p.2-3／展覧会案内 テーマ展「新・収蔵資料展～平成25(2013)年度からの新コレクション～」 p.4-5／活動レポート 生物学的劣化防除の取り組み 事業報告 トピック展「モシリユウとその仲間たち」 p.6／活動レポート 第10回岩手県立博物館まつり 事業報告 植物園大規模剪定 p.7／インフォメーション p.8

**160号:** 目次／テーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし～」表紙／いわて自然ノート「ドラゴンアイ(八幡平・鏡沼)の成因に迫る」 p.2-3／展覧会案内 テーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし～」p.4-5／事業報告 第76回地質観察会「雫石町の海と湖の地層を見る」事業報告 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うとき陸前高田」 p.6／事業報告 ミュージアムコンサート「岩手県立盛岡第四高等学校音楽部による合唱コンサート」 解説員室より 解説員にお声掛けくださいませ! p.7／インフォメーション p.8

b. 平成29年度岩手県立博物館年報

平成30年5月1日発行(A4判相当PDF版、76頁、ホームページ掲載)

c. 行事案内リーフレット

平成30年度下半期分(B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成30年8月発行)

平成31年度上半期分(B4変形・巻四ツ折、26,000部、平成31年3月発行)

d. 子供向け行事案内リーフレット「おやすみの日は博物館に行こうよ！」

(A4版 4c/1c 十字四つ折り 30,000枚 7月初旬発行)

e. 冬・春休み子ども新聞

平成30年7月発行(A4・45,000部)

平成30年12月発行(A4・65,000部)

平成31年2月発行(A4・45,000部)

#### (イ) 広報活動

a. 当館独自の広報

①定期発行

イベントガイド(毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約 2,000 部)  
 行事案内リーフ(年2回、公共施設および観光施設等配布、26,000 部)  
 子どもリーフ(年 1 回、近隣小学校等に配布、30,000 部)  
 「冬・春休み子ども新聞」(年 1 回、二戸～奥州市の小学校等に配布、45,000 部)

②不定期発行

新聞広告(岩手日報ぼらん)  
 その他各事業別ちらし(随時) 等

b. その他の公所

教育記者クラブ、日博協、全科協、県観光協会、盛岡観光コンベンション協会  
 県庁広聴広報 等

c. 新聞各社への情報

岩手日日新聞、胆江日日新聞、デーリー東北、東海新報、盛岡タイムス、秋田魁新報 等

d. ミニコミ誌等

acute、Amuse、vivitto、マ・シェリ、情報誌游悠、rakra、松園新聞、まいふれ 等

e. テレビ・ラジオによる広報

IBC テレビ・ラジオ(情報番組、天気ファイラー、テレビスポット、ラジオ番組中継等)

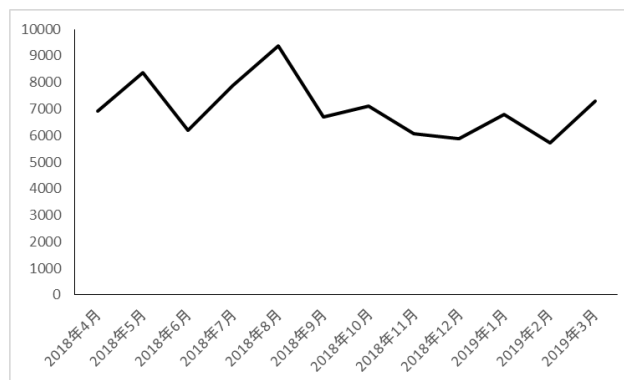
(ウ) 博物館公式ホームページおよび SNS の運営

岩手県立博物館公式ホームページ  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成 13 年 3 月 1 日に正式公開された。平成 24 年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバの cgi プログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。平成 30 年度は、全てのページの閲覧回数合計は 65,680 回と前年度より約 9%増加した。また、トップページの閲覧回数は 84,298 回で、前年度より 4%減少した。月別閲覧回数では、来館者の多い 5 月と 8 月にピークが見られた(図)。その他のページでは、展覧会案内、博物館の概要、展示室案内の順にページの閲覧回数が多かった。また、過去の『岩手県立博物館研究報告』掲載論文や、「博物館だより」掲載記事へのアクセスも増加している。

I. B. Museum SaaS を利用した当館収蔵資料の公開システム「デジタルアーカイブ」への平成 30 年度のアクセス実績は、7,505 回である。

表5(5)-1 トップページの月別閲覧回数(平成 30 年度)



SNS の利用としては、開館 30 周年を機に平成 22 年 9 月 30 日からツイッターアカウントを運用しているほか、平



成 28 年 1 月 5 日からフェイスブックの正式運用を開始した。平成 30 年度内のツイート回数は 189 回であった。年度末時点のツイッターアカウントのフォロワー数は約 4,690 人と、前年度に比べて約 6%増加している。

## イ. 情報機器の管理

平成 30 年度は、A4 カラーレーザープリンターを1台更新した。

## ウ. 委員会等への職員派遣

No.	期 日	委 嘱 元	委 員 会 等 名 称	内 容	派 遣 職 員
1	4 月 17 日	住田町教育委員会		ミズバショウ調査指導	鈴木まほろ
2	4 月 27 日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	第1回市史編さんに係る自然部会会議	鈴木まほろ
3	5 月 1 日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	市史編さんのための標本調査(北上市立博物館)	鈴木まほろ
4	5 月 7 日	県沿岸広域振興局	希少野生動植物調査検討委員会	希少野生動植物調査(陸前高田市)	鈴木まほろ
5	5 月 24 日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	第1回市史編さんに係る事務調整会議	鈴木まほろ
6	5 月 26 日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	市史編さんのための植物相調査	鈴木まほろ
7	6 月 4 日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
8	6 月 8 日	八幡平市博物館協議会	八幡平市博物館協議会	第1回八幡平市博物館協議会	木戸口俊子
9	6 月 12 日	県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会・同自然鳥獣部会	同左	鈴木まほろ
10	6 月 13 日	県沿岸広域振興局	希少野生動植物調査検討委員会	希少野生動植物調査(住田町)	鈴木まほろ
11	6 月 26 日	教育振興運動推進幹事会	地域とともにある学校づくり推進フォーラム 教育振興運動推進研修会	同左	木戸口俊子
12	7 月 4 日	県企業局		希少植物調査(北上市)	鈴木まほろ
13	7 月 9 日	教育振興運動推進幹事会	教育振興運動第1回推進幹事会	同左	木戸口俊子
14	7 月 11 日	県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第 78 回県環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
15	7 月 24 日	県環境生活部自然保護課		いわてレッドデータブック追跡調査	鈴木まほろ
16	7 月 26 日	東北森林管理局	平成 30 年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査検討委員会	第 1 回平成 30 年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査検討委員会	鈴木まほろ
17	7 月 27 日	県環境生活部自然保護課		早池峰山防鹿柵設置に関する現地検討会	鈴木まほろ
18	8 月 2 日	金ケ崎町生活環境課	生物多様性かねがさき地域戦略推進協議会	同左	鈴木まほろ
19	8 月 3 日	県環境生活部自然保護課	岩手県自然環境保全指針見直し検討委員会	第 1 回岩手県自然環境保全指針改訂検討委員会	鈴木まほろ
20	8 月 10 日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
21	8 月 12 日	日本植物分類学会 絶滅危惧植物・専門第一委員会		植物レッドリスト見直し調査	鈴木まほろ
22	8 月 14 日	県環境生活部自然保護課		いわてレッドデータブック追跡調査	鈴木まほろ
23	8 月 17 日	県環境生活部自然保護課		いわてレッドデータブック追跡調査	鈴木まほろ
24	8 月 29 日	県沿岸広域振興局	大船渡地区希少野生動植物調査検討委員会	希少植物調査および第 1 回希少野生動植物調査検討委員会	鈴木まほろ
25	9 月 11 日	県環境生活部自然保護課	県環境審議会自然・鳥獣部会	同左	鈴木まほろ

No.	期日	委 嘱 元	委 員 会 等 名 称	内 容	派遣職員
26	9月14日	県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	希少植物調査(八幡平市)	鈴木まほろ
27	9月15日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	市史編さんのための植物相調査	鈴木まほろ
28	9月27日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	市史編さんのための植物相調査	鈴木まほろ
29	10月22日	県環境生活企画室	県環境審議会	同左	鈴木まほろ
30	10月24日	県環境生活部自然保護課	岩手県自然環境保全指針見直し検討委員会	第2回岩手県自然環境保全指針改訂検討委員会	鈴木まほろ
31	11月8日	県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	現地視察(八幡平市)	鈴木まほろ
32	12月10日	県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第79回県環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
33	12月14日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	第2回市史編さんに係る事務調整会議	鈴木まほろ
34	1月22日	県沿岸広域振興局	大船渡地区希少野生動植物調査検討委員会	第2回希少野生動植物調査検討委員会	鈴木まほろ
35	1月28日	県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	第80回県環境影響評価技術審査会	鈴木まほろ
36	1月29日	東北森林管理局	平成30年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査検討委員会	第2回平成30年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査検討委員会	鈴木まほろ
37	1月31日	県環境生活部自然保護課	平成30年度岩手県希少野生動植物保護検討委員会	同左	鈴木まほろ
38	2月4日	国土交通省	四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議	四十四田ダム水源地域ビジョン推進会議総会	木戸口俊子
39	2月6日	県環境生活部自然保護課	平成30年度早池峰地域シカ対策部会	同左	鈴木まほろ
40	2月8日	県環境生活部環境生活企画室	県環境審議会	同左	鈴木まほろ
41	3月5日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	同左	鈴木まほろ
42	3月8日	盛岡市教育委員会	盛岡市子ども科学館運営協議会	平成30年度第2回盛岡市子ども科学館協議会	小山内透
43	3月13日	県環境生活部自然保護課	岩手県自然環境保全指針改訂検討委員会	第3回岩手県自然環境保全指針改訂検討委員会	鈴木まほろ

## エ. 外部助成

○研究助成 平成30年度は、外部助成として1件の採択があった。

### 平成30年度外部助成金採択状況

	氏名	部門	関連事業・研究テーマ名等	助成の名称	金額	申請先
1	渡辺修二	生物	第69回企画展「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」	平成30年度全国科学博物館活動等助成事業	490,000	一般財団法人 全国科学博物館振興財団

## 6. 文化財レスキュー活動

### (1) はじめに

2011(平成 23)年 3 月 11 日に発災した東日本大震災によって、東日本太平洋沿岸部に立地する博物館関係施設をはじめ、図書館、学校、宗教法人及び個人等が所有する膨大な数の文化財や自然史標本、その関連資料等が被災した。文化財保護法制定後最大規模の自然災害発生を受け、岩手県立博物館(以下、当館という。)では、2011 年 4 月 2 日から今日まで、岩手県太平洋沿岸部で被災した様々な資料の救出とその再生に取り組んできた。

救出された資料を再生するには塩分をはじめ、津波によってもたらされた資料劣化を引き起こす様々な有害物質を除去し、資料を長期にわたり安定した状態で保管可能とする安定化処理が不可欠である。そこで当館では、全国の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携しながら試行錯誤を重ね、救出された古文書、民具、自然史標本等に対する安定化処理方法を構築し、その再生を図ってきた。平成 31 年 3 月末現在、岩手県太平洋沿岸部から救出された 23 万点余りについてその再生を果たしてきたが、それでも未だ 27 万点を超える資料が救出されたままの状態 で保管されている。それらの中には水洗が困難なため、新たな措置方法を構築し、対処しなければならない資料が相当数含まれている。再生された資料についても、措置後の状態を注意深く経過観察する必要がある。当館では今も処理と並行し、全国の専門機関と連携して様々な試験研究を行いながら、被災資料の再生を進めている。以下に平成 30 年度の取組状況について報告する。

### (2) 安定化処理

当館では 2011 年 4 月 5 日、岩手県陸前高田市立図書館から救出された岩手県指定文化財『吉田家文書』及びその関連資料の処理に着手した。大津波で被災した資料を再生するためには、資料の材質や劣化状況に合わせ、除菌、除泥、脱塩を目的とする安定化処理方法を構築する必要がある。救出された資料の状態を確認後、試行錯誤を重ねながら安定化処理方法を構築し、その再生を進めてきた。2011 年の下半期には、古文書や書籍類を対象に構築された措置方法をベースに、民具の安定化処理方法を構築し、その処理を進めてきたところである。

安定化処理は順調に進んだが、2014 年に東京文化財研究所と共同で行った経過観察によって、一連の措置を施した紙を素材とする資料の中に、異臭の発生や資料の一部が黄褐色に変色した資料が確認された。東京文化財研究所と連携しその原因について調査した結果、資料に残留する魚介類由来の脂質やタンパク質が細菌によって分解されることによって発生した化学物質により引き起こされた現象、いわゆる嫌気性発酵による可能性の高いことが判明した。魚介類の養殖により海底に堆積するヘドロが津波によってもたらされたことが主因と推定される。異臭の発生や黄褐色への変色を防止するため、これまでの処理工程に新たに、資料に残留する油脂やたんぱく質の除去を目的とする、医療用中性洗剤(ホワイ ト 3P)による洗浄工程を加え、措置を施した。その結果、異臭の発生や変色を防止することができた。



図1 異臭と変色が生じたノリスキ網



図2 中性洗剤による古文書の洗浄

同様の現象は国登録漁撈用具、とりわけノスキ網やタモといった植物繊維を素材とする用具の中にも確認された。そこで、漁労用具についても紙を素材とする資料同様、中性洗剤による洗浄を新たに施した。これまでの経過観察では、異臭や変色といった異状は確認されず、処理後の状態は良好である。

安定化処理を進めるうえで取り組まなければならない課題の一つに、処理時間の短縮がある。未だ救出されたままの状態では保管されている膨大な数の資料に対する処理を迅速に進めるうえで、極めて重要な課題である。それまで古文書や書籍類の脱塩処理は、資料を水道水に浸した後、24 時間ごとに水槽内の水道水を取り換えながら、4～5 日継続する、という方法で行われてきたが、東京文化財研究所との共同調査によって、水槽内の水を交換することなく長時間使用した場合、水槽内に細菌が繁殖し、異臭や変色が発生する危険性が極めて高いことが確認された。そこで、脱塩処理の前に可能な限り資料を解体し、一枚ずつポリエステル紙で保護した後、まず、中性洗剤を添加した水槽に一昼夜浸漬し、細菌繁殖の要因となる脂質やタンパク質の除去を図った。翌朝、資料を水道水に浸漬し、朝と夕方に水槽内の水を取り換えながら脱塩を行った。この方法により、水槽内での細菌繁殖防止を図りつつ、脱塩に要する時間をそれまでの5～6日から3日程度に短縮することができた。

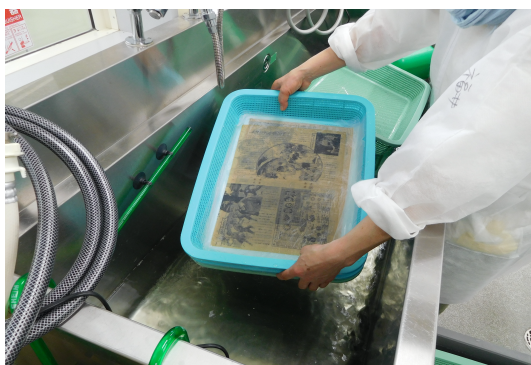


図3 解体した書籍類の脱塩準備



図4 解体した書籍類の脱塩処理

紙を素材とする資料の安定化処理において技術的に克服しなければならない課題の一つに、水溶性のインクや染料といった、水に溶出する描画材料が使用された資料や、油彩画やアクリル画のように、水に浸漬することによる変形や崩落が生じる恐れのある資料に対する洗浄法の構築が喫緊の課題となっている。水への浸漬が困難な資料のうちアクリル画については東京国立博物館が中心となり、高吸水性樹脂シートを使用した洗浄・脱塩方法を開発し、陸

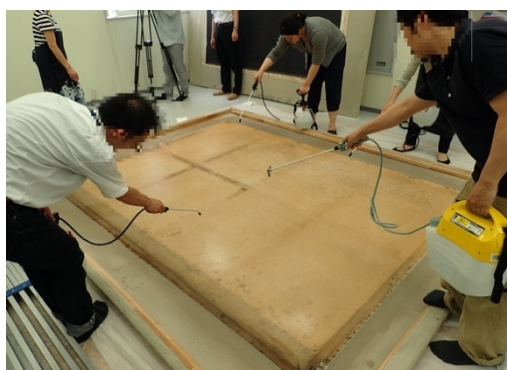


図5 カンバス画へのイオン交換水の噴霧



図6 高吸水性樹脂シートによる噴霧したイオン交換水の吸水

前高田市立博物館から救出されたアクリル画の処理を進めている。処理対象とするアクリル画の背面からスプレーでイオン交換水をすばやく噴霧し(1 回目の噴霧時にはエタノール 40%水溶液を使用)、イオン交換水を含ませた濾紙を裏面に敷く。資料に残留する塩分を濾紙に移動させた後、濾紙の上に高吸水性樹脂シートを敷き、噴霧した水を吸い取る。この操作を 5 回程度繰り返すことにより(2 回目以降の噴霧ではエタノールは使用せずイオン交換水のみ使用)、資料に残留する塩分除去が進められている。

自然史標本については発災時、全国の研究者が連携して構築した措置方法を用い、安定化処理及び修理が進められてきた。平成 30 年度、昆虫標本については新たに発見された標本に対する安定化処理及び修理を施した。植物標本については、標本に関連する学術資料の安定化処理を実施した。当館で実施した平成 30 年度の安定化処理・修理は、表 1 に示すとおりである。

表1 平成 30 年度の安定化処理及び修理の実施状況

No.	実施内容	安定化処理・修理(点)
1	被災紙製資料安定化処理及び修理業務	4,526
2	被災被災民俗資料安定化処理及び修理業務	1,025
3	被災鳥羽源藏コレクション安定化処理及び修理業務	9,668
4	被災考古資料安定化処理及び修理業務	14
5	被災昆虫標本修理業務	350
6	被災被災自然史関連資料修理業務	1,000

### (3) 確立した安定化処理技術の普及

被災した資料の再生は、国内はもとより国際的にみても未確立である。このような状況をふまえ当館では、被災資料の安定化処理及び修復を実施している修復館内の作業を可視化すると共に、展示・教育普及活動等を通じ、多くの方々に被災資料再生の現状を報告し、確立された技術の普及を図ってきた。平成 26 年 5 月には岩手県立博物館を中核館、東京国立博物館、陸前高田市立博物館、公益財団法人日本博物館協会を主要構成機関とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」(会長:岩手県立博物館長)を結成し、ア. 連綿と続く被災文化財等再生に対する取り組み状況を多くの方々に理解していただく、イ. 多くの専門機関の連携により構築された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し、その普及を図る、ウ. 今後も発生が懸念される大規模自然災害に備える、エ. 被災した博物館の復興を支援する、という4つを活動目的に掲げ、文化庁の支援をいただきながら様々な活動を続けてきた。平成 30 年度は、女子美術大学で「甦る。ふるさとの宝物津波で被災し修復された陸前高田市立博物館所蔵品」(平成 30 年 11 月 1 日～平成 30 年 12 月 6 日)を、芦屋町立歴史民俗資料館で「8 年目の 3・11 一大津波から甦る財(たから)たち〜」(平成 31 年 2 月 5 日～3 月 21 日)を開催した。また、第 66 回全国博物館大会に併せ、東京国立博物館表慶館で開催されたミュージアム・メッセ in トーハクにおいて、初災から 7 年 8 ヶ月余りにわたって続けられてきた被災文化財救出から再生に至るまでの歩みをブース展示した。

確立された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し、今後発生が懸念される類似の自然災害に備えることを目的に、上記特別展の開催に併せ平成 30 年 11 月 4 日に女子美術大学で、平成 31 年 3 月 17 日には芦屋町立歴史民俗資料館で安定化処理をテーマとするワークショップを実施した。ワークショップではまず、被災文化財等救出から再生に至るまでの状況、構築された安定化処理技術の概要及び今後の課題について説明し、併せて、被災資料の円滑な救出を図る上での留意点や安定化処理を円滑に進めるうえで日頃から準備しておくべき事項等について解説した。女子美術大学のワークショップでは染織資料を、芦谷町歴史民俗資料館では民具及び紙を素材とする資料の安定化処理実習を行った。終了後、参加者から被災した資料の救出方法、救出された資料の保管方法、水漬けが困難な資料の脱塩方法等をはじめとする具体的措置方法に関する質問が出された。



図7 ミュージアム・メッセ in トーハクにおけるブース展示

平成 27 年 9 月の常総市鬼怒川水害、平成 28 年 4 月の熊本地震、平成 28 年 8 月の台風 10 号による東日本大震災被災地の水害、平成 29 年 7 月の九州北部豪雨、平成 30 年 7 月の西日本豪雨にみられるように、東日本大震災発災以降、水害を伴う自然災害が多発している現状をふまえると、水損資料の救出と再生に対する備えは、今後も取り組むべき重要な課題である。

#### (4) 被災地支援

被災文化財再生に取り組んできた機関では、資料再生と並平成 29 年度まで新たに構築された処理方法を被災地に紹介し、被災地で実施されている安定化処理を円滑に進めることを目的に、平成 30 年 8 月 20 日と 8 月 21 日の 2 日間に渡り、仮設陸前高田市立博物館において支援ワークショップが大津波プロジェクトの主催で開催された。ワークショップでは文化庁の石垣調査官から、救出された陸前高田の漁撈用具再生の意義について解説いただき、次に、当館鈴木まほろ専門学芸員から、「岩手博物界の太陽」とも呼ばれた博物学者・鳥羽源藏氏の功績と収集した資料の学術的価値についての説明がなされた。その後、水彩画の安定化処理方法、アクリル画の安定化処理方法についての実習が行われた。平成 31 年 2 月 6 日～2 月 11 日

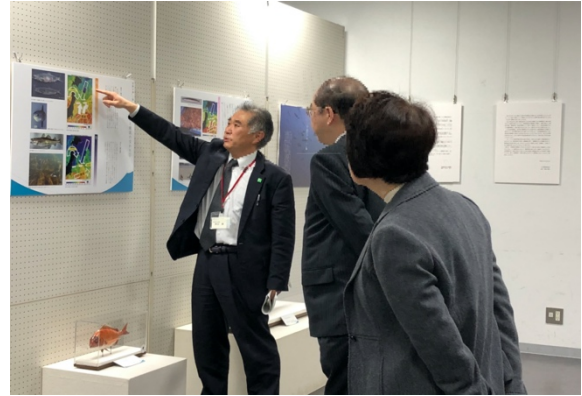


図8 陸前高田市コミュニティホールで開催された支援特別展

には陸前高田市コミュニティホールで、支援特別展「ずっとずっと陸前高田―“奇跡の海”の漁撈用具―」が開催された。会期中の 2 月 9 日には同ホールで「よみがえる文化財と博物館の復興」をテーマとする支援シンポジウムが、大津波プロジェクトの主催で開催された。一連の活動を通じ、発災から今日まで全国の様々な機関、個人の方々の御支援をいただき取り組んできた被災文化財等の再生に対する理解が深められると共に、今後の活動を進めるうえで有益な情報交換がなされ、今後取り組むべき課題や方向性が整理された。

#### (5) 今後の課題

発災以降、全国の専門機関が連携し連綿と被災資料の再生を進めてきたが、陸前高田市に限っても未だ約 26 万余りの資料が救出されたままの状態でも保管されている。その中には、水漬け不能な資料や海水損によって変質し、被災前の物性を回復しなければならない資料など、新たな安定化処理方法を構築したうえで対処しなければならない資料が多数含まれている。当館ではこれまでに被災資料再生に従事してきた専門機関、大津波プロジェクト実行委員会との連携を一層強化しながら、残された資料の再生と被災した博物館の復興支援を図ると共に、新たな類似大規模自然災害に対する備えを目的とする活動に取り組んでいきたいと考える。皆様には引き続き御支援をお願いしたい。

## 7. 岩手県立博物館友の会

### (1) 概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン(講演会)」など多彩な事業を実施した。高齢会員の退会などがあり、会員数は減少傾向にあるが、40歳代～60歳代の新規会員も少数ではあるが入会している。また、団体会員・賛助会員の増員を今後も望むところである。

友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

### (2) 会員数

平成30年度 269件 491人  
一般会員 169人 (平成29年度 196人)  
家族会員 83件・259人 (平成29年度 89件・290人)  
小中高会員 0人 (平成29年度 0人)  
終身会員 25人 (平成29年度 25人)  
賛助会員 17件・32口 (平成29年度 16件・28口)  
団体会員 6件 (平成29年度 6件)

### (3) 主催事業

#### ア. 現地見学会

- (ア) 第1回 「福島県の歴史と文化に学ぶ」  
※ 最少催行人数に満たなかったため中止

#### イ. 野外観察会

- (ア) 第1回 「自然観察会」 博物館行事に参加  
「クモを見つけよう in 小鹿公園」  
7月1日(日) 参加者 19人  
講師 学芸調査員 渡辺修二氏
- (イ) 第2回 「自然観察会」 博物館行事に参加  
「早池峰山河原坊の植物観察」  
9月30日(日)  
※ 雨天中止
- (ウ) 第1回 「地質観察会」 博物館行事に参加  
「白亜紀の岩泉を訪ねて」 岩泉町  
7月1日(日)参加者 36人  
講師 主任専門学芸調査員 山岸千人氏
- (エ) 第2回 「地質観察会」 博物館行事に参加  
「雫石町の海と湖の地層を見る」 雫石町

10月14日(日)参加者19人  
講師 学芸員 望月貴史氏

## ウ. 話のサロン (講演会)

- (ア) 第1回「平泉文化の地質学的環境～イタリアの世界遺産を背景に～」  
5月12日(日) 参加者 14人  
講師 元県立博物館学芸部長 大石雅之氏
- (イ) 第2回「鳥獣と自然環境を語る」(県博日曜講座)  
11月25日(日) 参加者 37人  
講師 上席専門学芸員 藤井忠志氏
- (ウ) 第3回「神楽の楽しみ方」  
31年2月17日(日) 参加者 25人  
講師 画家・神楽研究家 飯坂真紀氏

## エ. 会報発行等

- (ア) 「友の会会報」発行(A4判 8頁、500部)  
4回(No.112~114)発行(4,7,2の各月)
- (イ) 「友の会通信」発行(A4判 両面刷り2頁、500部)  
4回(No.116~119)発行(6,9,12,3の各月)
- (ウ) 「岩手県立博物館だより」発送  
年4回発送(No.157~160)(6,9,12,3の各月)
- (エ) 「岩手県立博物館行事案内」発送  
年2回(4,9各月)
- (オ) 県博の行事等の案内、要項を年8回開催の友の会企画委員会で随時発送。

## オ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部を博物館行事への参加とし、博物館まつりの昔遊びでは企画委員のほかに数名の会員の協力を得て、いろいろな昔遊びを子供たちと一緒に遊び指導することができた。



## 8. 博物館利用者入館状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年度	総利用人数				開館 日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,341	837	14,905	41,083	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133
平28	26,620	1,417	16,931	44,968	304	148
平29	31,074	1,631	17,614	50,319	303	166
平30	27,889	1,419	18,575	47,883	304	158
総計	1,851,313	199,107	861,046	2,911,466	11,506	-
平均	47,470	5,105	22,078	74,653	295	253

平成30年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高大学生	小中学生	計		
4	1,780	120	873	2,773	26	107
5	3,933	87	2,797	6,817	27	252
6	1,897	175	972	3,044	26	117
7	2,799	115	1,813	4,727	27	175
8	3,725	232	2,634	6,591	29	227
9	1,523	40	1,176	2,739	18	161
10	2,969	167	2,072	5,208	26	193
11	2,255	134	1,103	3,492	26	134
12	1,451	72	917	2,440	24	102
1	1,907	62	1,515	3,484	24	145
2	1,567	117	1,193	2,877	24	115
3	2,083	98	1,510	3,691	27	142
計	27,889	1,419	18,575	47,883	304	158

## 開館以来の入館者数（利用区分別）

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,361	512	6,975	21,848	1,822	71	320	2,213	9,158	254	7,610	17,022
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
平28	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317
平29	20,101	945	10,266	31,312	1213	281	333	1,827	9,760	405	7,015	17,180
平30	18,504	685	11,867	31,056	696	98	244	1,038	8,689	636	6,464	15,789

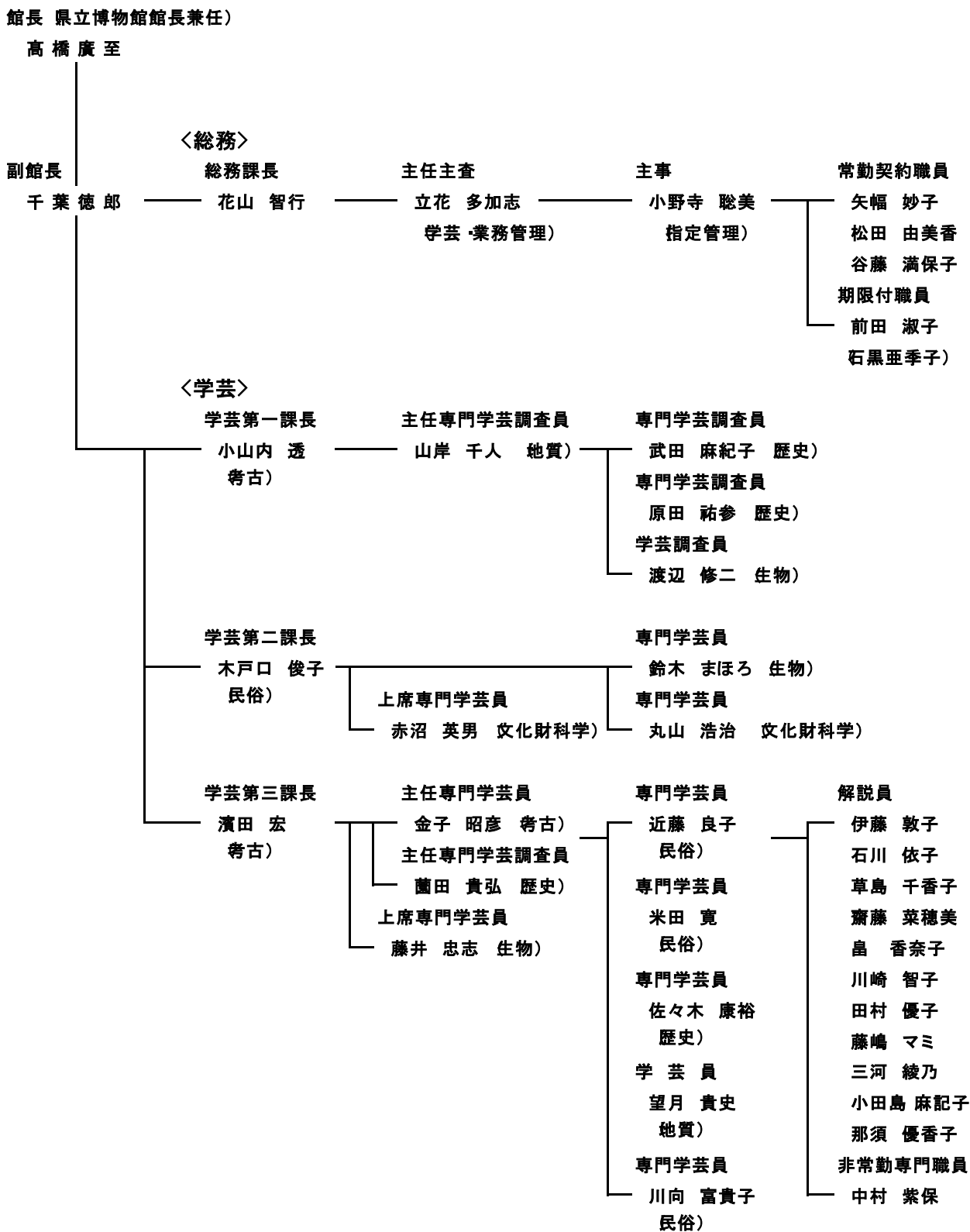
区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
総計	1,090,859	56,259	316,439	1,463,557	439,981	16,192	39,243	495,416	320,473	126,656	505,364	952,493
平均	27,971	1,443	8,114	37,527	11,282	415	1,006	12,703	8,217	3,248	12,958	24,423

平成30年度月別入館者数(利用区分別)

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計	一般	高大学生	小中学生	計
4	1,198	28	685	1911	7	88	0	95	575	4	188	767
5	2,282	81	1,508	3,871	110	0	10	120	1,541	6	1,279	2,826
6	1,225	47	636	1,908	148	4	7	159	524	124	329	977
7	2,167	73	1,512	3,752	90	0	20	110	542	42	281	865
8	3,225	135	2,285	5,645	48	0	47	95	452	97	302	851
9	898	36	436	1,370	185	4	0	189	440	0	740	1,180
10	1,481	60	801	2,342	53	0	19	72	1,435	107	1,252	2,794
11	1,418	47	562	2,027	43	2	22	67	794	85	519	1,398
12	909	42	662	1,613	0	0	0	0	542	30	255	827
1	1,288	53	1,003	2,344	6	0	54	60	613	9	458	1,080
2	789	25	496	1,310	6	0	65	71	772	92	632	1,496
3	1,624	58	1,281	2,963	0	0	0	0	459	40	229	728
計	18,504	685	11,867	31,056	696	98	244	1,038	8,689	636	6,464	15,789

# 9. 平成 30 年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織

H30. 4. 1



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史(古美術)	民俗	生物	文化財科学	計
2人	3人	4(1)人	4人	3人	2人	18(1)人

# 10. 岩手県立博物館使命書

(平成20年3月25日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史的変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

## 1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

## 2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

## 3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

# 11. 関係条例・規則等

## (1) 博物館条例

昭和55年7月15日条例第41号

(設置)

第1条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第1条の2 博物館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第1条の3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第2条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

第3条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第3項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第3項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第4条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をするこ

と。

(5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第2条第1項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第3項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。
- (2) 第2条第3項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第2条第1項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第3条第1項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第3項」とあり、及び「第2条第3項」とあるのは「第3条第2項において読み替えて準用する第2条第3項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第6条 第2条第1項の許可を受けた者(以下「入館者」という)は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

- (1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。
- (2) 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者(15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者)、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。
- (3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することができる。

- (1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。
- (2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。
- (3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第10条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第11条 この条例の実施に関し、第6条から第9条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
学生	140円	1人につき70円
一般	310円	1人につき140円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額(以下「特別入館料」という。)を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料(特別入館料を除く。)は、無料とする。

## (2) 博物館条例施行規則

昭和55年9月26日  
規則第78号

(趣旨)

第1条 この規則は、博物館条例(昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。)の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第2条 条例第6条第1項に規定する入館料の領収書に

ついては、岩手県立博物館管理運営規則(昭和55年岩手県教育委員会規則第9号)第4条第2項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第7条の規則で定める者)

第3条 条例第7条第2号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者(知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児)及びその介護を行う者
- (2) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者(15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者)若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者(知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児)と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者
- (3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者(15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者)又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者  
(入館料の免除及び還付)

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免

除又は還付を受けようとする者(以下「申請者」という。)は、別に定める様式による入館料免除(還付)申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

2 知事は、前項の入館料免除(還付)申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めたときは、別に定める様式による入館料免除(還付)承認書を申請者に交付するものとする。

附 則(平成21年3月13日規則第7号)

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則(以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。)に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等

に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

### (3) 岩手県立博物館管理運営規則

昭和 55 年 9 月 26 日  
教育委員会規則第 9 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、岩手県立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第 2 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その翌日以後の日であって当該休日に最も近い休日でない日)
- (2) 資料整理日(資料の整理、点検等を行う 9 月 1 日から 9 月 10 日までの 10 日間をいう。)
- (3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで

2 博物館条例(昭和 55 年岩手県条例第 41 号。以下「条例」という。)第 1 条の 2 に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)は、必要があると認めるときは、博物館の館長(以下「博物館長」という。)の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

(開館時間)

第 3 条 博物館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 4 時 30 分までとする。ただし、入館時間は、午後 4 時までとする。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

(入館許可の申請)

第 4 条 条例第 2 条第 1 項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

2 指定管理者は、条例第 2 条第 1 項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

(撮影、貸出等の許可)

第 5 条 条例第 3 条第 1 項の規定による許可を受けようとする者は、別に定める様式による資料撮影等許可(変更)申請書又は別に定める様式による資料貸出許可(変更)申請書を博物館長に提出しなければならない。

2 博物館長は、条例第 3 条第 1 項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。

3 資料の貸出期間は、30 日以内とする。ただし、博物館長が特

に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。

4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損(損傷、亡失)報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

(汚損等の届出)

第 6 条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

(協議会の所掌)

第 7 条 条例第 10 条の規定による岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- (1) 資料の収集、保管、展示等に関すること。
- (2) 資料の調査研究、利用等に関すること。
- (3) その他博物館の運営に関すること。

(会長)

第 8 条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第 9 条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(補則)

第 10 条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則(平成 21 年 3 月 6 日教育委員会規則第 2 号)

1 この規則は、平成 21 年から 4 月 1 日から施行する。

2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続に関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の



規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる  
廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立  
及び監督に関する規則(以下「岩手県教育職員免許状に関す  
る規則等」という。)に規定する別に定める様式は、この規則の施  
行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等に  
ついて適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通  
知書等については、なお従前の例による。

- 3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等  
に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使  
用することができる

# 平成 30 年度岩手県立博物館年報

令和元年 5 月 1 日

編 集： 岩 手 県 立 博 物 館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発 行： 公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸 13-1

Tel 019-654-2235